第３回　令和６年度

ＪＡグループ広島
支店
active membership
協同活動
コンクール

活動報告集

©みんなのよい食プロジェクト

JA広島中央会

ＪＡ綱領

―わたしたちＪＡのめざすもの―

わたしたちＪＡの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋

わたしたちは

１．地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。

１．環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる
豊かな地域社会を築こう。

１．ＪＡへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。

１．自主・自立と民主的運営の基本に立ち、ＪＡを健全に経営し信頼を高めよう。

１．協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋　＋

はじめに

ＪＡグループ広島は、第29回ＪＡ広島県大会決議において、「持続可能な農業・地域共生社会の未来づくり」をテーマに、３つの基本目標（農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化）の達成に向け、組合員とともに不断の自己改革を実践することを決議し、取り組みをすすめており、本年は最終年です。

大会決議の重点取組事項である「持続可能な地域・組織・事業基盤の確立」のうち、「組合員の『アクティブ・メンバーシップ』の確立」は、全てのＪＡで取り組む重点実施事項に位置づけており、多様化する組合員の実態・ニーズに対応した組合員のアクティブ・メンバーシップの強化を図ることが課題となっています。

こうした中、ＪＡでは、組合員や地域住民の声をＪＡ運営に反映させる協同活動に取り組むとともに、組合員や利用者、地域住民の意思を反映した地域活動の基盤を確立することを目的とした支店ふれあい委員会などの活動を通じて、組合員の運営参画をすすめています。

これらの取り組みは、ＪＡの支店等が組合員・利用者・地域住民の拠りどころとして存在感を発揮するために実施されるものであることから、本店・支店が一体となり、部署横断的な取り組みが望まれます。

以上をふまえ、本会では、組合員の意思反映・運営参画へのステップアップに向け、多様化する組合員との接点強化につながる取り組みとして、支店等を拠点とした「支店協同活動」の取り組みの共有と、ＪＡグループ広島における支店協同活動の実施・展開の拡大によるＪＡ組織基盤強化を目的に、令和４年度よりＪＡグループ広島「支店協同活動コンクール」を開催しております。

本冊子は、令和６年８月８日に広島市（ＪＡビル）で開催したコンクール審査の結果報告と応募いただいた支店協同活動の取り組み内容を掲載しておりますので、支店協同活動の取り組みの参考としていただき、各ＪＡにおける支店協同活動の充実、組合員とのアクティブ・メンバーシップの確立、そして、組合員や地域住民との関係強化に役立てていただければ幸いです。

令和６年９月

広島県農業協同組合中央会

第３回 令和６年度

ＪＡグループ広島 支店 active membership 協同活動コンクール

目次

■支店協同活動コンクール実施要領 …… 4

■審査講評 …… 7

〈第３回支店協同活動コンクールの軌跡〉

■受賞支店一覧 …… 8

■最優秀賞／ＪＡ広島市 矢野支店のプレゼンテーション …… 9

■優秀賞／ＪＡひろしま 作木支店のプレゼンテーション …… 12

■優良賞／ＪＡひろしま 西条支店のプレゼンテーション …… 15

〈年間活動一覧・活動報告書・プレゼンテーション資料〉

■ＪＡ広島市 矢野支店 …… 20

■ＪＡひろしま 西条支店 …… 36

■ＪＡひろしま 作木支店 …… 45

■ＪＡ尾道市 世羅支店 …… 55

■ＪＡ福山市 神村支店 今津出張所 …… 62

■過去の受賞支店とノミネート支店（発表者）一覧 …… 71

実施要領

ＪＡグループ広島「第３回 支店協同活動コンクール」

◆趣旨

ＪＡグループ広島では、第29回ＪＡ広島県大会決議において、「持続可能な農業・地域共生社会の未来づくり」を決議し、「３つの基本目標（農業者の所得増大・農業生産の拡大・地域の活性化）」の達成に向け、組合員とともに不断の自己改革に取り組むこととした。

また、重点取組事項の１つとして「持続可能な地域・組織・事業基盤の確立」を位置づけており、組合員の意思反映・運営参画へのステップアップに向けてＪＡくらしの活動を類型化し、メンバーシップの段階に応じた対応や活動の充実に努めることとしている。

組合員のアクティブ・メンバーシップ強化の手段として、支店等を拠点とした支店協同活動が重要となっていることから、取り組み事例の共有と顕著な活動を表彰することで、ＪＡグループ広島における支店協同活動の実施・展開の拡大と、ＪＡ組織基盤強化を図ることを目的に本コンクールを開催する。

◆主催

ＪＡ広島中央会

◆開催日時

令和６年８月８日（木） 13:00～16:30

◆開催場所

ＪＡビル１０階 大会議室 AB（広島市中区大手町４丁目７－３）

◆応募基準および応募方法

1. 応募対象支店（所）・事務所

原則として１ＪＡ１支店（所）（事業所を含む）とするが、３支店まで可能とする。

2. 応募対象活動

支店（所）・事業所が行う協同活動（活動例参照）のうち、重点的な活動２つ以内とする。

■活動例

シリーズ関連	①農業理解（農業塾） ②食農教育（あぐりスクール） ③各種グループ活動 ④料理教室 ⑤女性大学、組合員大学 等
地域貢献関連	①花畑・田んぼアート ②環境美化・清掃活動 ③子育て支援 ④交通安全・防犯活動 ⑤助けあい活動 等
イベント関連	①各種スポーツ大会 ②農業体験、出前授業 ③書道・絵画展 ④支店旅行 等

※重点的な活動（２つ以内）は、イベント関連の中から２つ、イベント関連・シリーズ関連から各１つなど、自由に選んでいただいて構いません。

3. 対象期間

令和５年度に実施した活動（計画検討・継続実施活動を含む）

4. 応募方法

下記の期日までにＥメールにて本会 営農組織支援部へ提出する。

①応募様式①～③ および 応募申込・参加者報告書：令和６年６月２８日（金）まで

②プレゼンテーション発表パワーポイントデータ（20 枚以内）：令和６年７月２５日（木）まで

【提出先】ＪＡ広島中央会 営農組織支援部　宛

E-mail：kyoudou@jagh.net

◆審査

1. 審査会

審査会は、以下の団体より推薦された審査委員により構成する。

〈審査員〉

一般社団法人日本協同組合連携機構	主任研究員　西井 賢悟 氏［委員長］
株式会社日本農業新聞 中部西日本統括支所 中国四国支所	支所長　小菅 真 氏
一般社団法人家の光協会 普及文化本部 西日本普及文化本部 読書・食農・教育文化部	部長　岡本 忠 氏
生活協同組合ひろしま	専務理事　髙浦 美穂 氏
広島県農業協同組合青壮年連盟	副委員長　髙西 雅博 氏
ＪＡ広島県女性組織協議会	会長　樫木 美喜 氏

2. 審査方法

①審査基準に基づき、提出書類および当日のプレゼンテーション審査で判定する。
②各ＪＡの支店（所）・事業所の代表者が、ＪＡくらしの活動をはじめとする協同活動の取り組みの特徴や工夫した点等を 10 分以内のプレゼンテーション形式で発表し審査員が審査を行う。
③採点は、審査基準を 100 点満点で採点する。なお、発表時間（10 分）を超過した場合には、各審査員の点数から１分間１点を減ずる。
④提出書類および当日のプレゼンテーションの内容を加味し、審査会を行い、賞を決定する。

◆審査基準

1. **目的・計画性**
   - ◎支店ふれあい委員会等での協議等、組合員・地域のニーズ・願いに基づき活動計画を策定しているか
   - ◎活動の対象が明確化されているか
   - ◎部門横断プロジェクトでの調整等、本店等との連携が図れているか

2. **活動内容**
   - ◎地域性・独自性があり、創意工夫されている取り組みであるか
   - ◎ＪＡと組合員・地域住民を結びつける活動であるか
   - ◎ＪＡの総合機能が発揮されているか
   - ◎活動の総括がなされ、ＰＤＣＡサイクルが機能しているか
   - ◎ＳＤＧｓを意識した取り組みであるか

3. **活動成果 発展可能性**
   - ◎活動参加者の組合員加入等ＪＡの組織基盤強化に結びついているか、もしくは今後結びつく可能性があるか
   - ◎ＪＡ事業の利用拡大効果に結びついているか、もしくは今後事業への発展性がみられるか
   - ◎地域活性化につながっているか、もしくは今後つながる可能性があるか

4. **プレゼンテーション**
   - ◎熱意・意気込み、聞きやすさ、資料のわかりやすさ

◆プレゼン発表時の留意点

当日のプレゼンテーション発表では、応募対象支店で取り組んでいる協同活動全般の紹介についてもご報告いただいたうえで、「令和６年度支店協同活動コンクール応募支店等活動報告書【様式③－２】」で報告いただいた活動（２つ以内）に重点を置いて発表を行う。
また、プレゼンテーション発表用のパワーポイントデータは 20 枚以内とする。

◆表彰

応募対象支店（所）・事業所から上位を次により表彰し、賞状と記念品を授与する。

◎表彰点数

①最優秀賞　１点
②優秀賞　　１点
③優良賞　　若干

◎記念品（賞金）

①最優秀賞　５万円
②優秀賞　　３万円
③優良賞　　１万円

◎「最優秀賞」を受賞したＪＡ支店（所）・事業所は、ＪＡ全中が主催する「令和６年度（第 38 回）広報活動優良ＪＡ選定－ＪＡ広報大賞－」の「地域密着型広報活動の部」に推薦する。

◆コンクールまでのスケジュール

6月 28 日（金）	【応募様式、参加者報告締切】 応募様式および参加者報告書を中央会まで E-mail で提出 〈提出資料〉◎応募書（様式①）◎審査補助資料（様式②） ◎活動報告書（様式③）　◎応募申込および参加者報告書
7月 25 日（木）	【プレゼンテーション発表用データ提出締切】 パワーポイントデータを中央会まで E-mail で提出 〈提出資料〉パワーポイントデータ ※２０枚以内
8月　8日（木）	【支店協同活動コンクール】 審査会の開催 （プレゼンテーション発表・審査） 表彰ＪＡの決定

◆コンクール当日のスケジュール

13:00 ～ 13:10	開会 開会あいさつ
13:10 ～ 14:30	プレゼンテーション発表（各組織 10 分以内）
14:30 ～ 14:40	休憩
14:40 ～ 15:40	講演 JA あいち中央 組織生活部 部長 川路 伸之 氏 「アクティブメンバーシップの確立を目指して」 ※第36 回令和４年度 ＪＡ広報大賞 総合の部 大賞受賞ＪＡ
15:40 ～ 15:50	休憩
15:50 ～ 16:20	「支店協同活動コンクール」審査発表 表彰式
16:20 ～ 16:30	閉会あいさつ 閉会

審査講評

審査委員長　西井 賢悟
（一般社団法人日本協同組合連携機構 主任研究員）

「支店を核に、組合員・地域の課題に向き合う協同」を掲げた第 26 回ＪＡ全国大会（2012 年）を契機として、支店協同活動は全国に大きく広がった。この取り組みは、地域を元気にする活動、地域の役に立つ活動を展開し、その中でＪＡファンを増やすことや、組合員の「わがＪＡ」意識を高めることを目指すものである。

もちろんこうした目的は、ただ漫然と活動を繰り返しているだけでは達成するのが難しい。一つ一つの活動について、誰をターゲットにするのか、どんな内容なら親近感を高められるのか、職員はどのように関わるべきかなど、戦略性を高める必要がある。本コンクールは、その要諦を互いに学ぶために実施するものである。以下では、コンクールで発表した４ＪＡ・５支店の活動のポイントを記すこととする（順序は発表順）。

ＪＡひろしま・西条支店は、支店ふれあい委員と職員が協力して小学校での「田植え体験学習」に取り組み、子どもたちが楽しく農業を学ぶ場をつくり出している。また、支店で「ふれあいギャラリー」を開催し、人が集まる支店づくりに成功している。

ＪＡ福山市・神村支店今津出張所は、支店運営委員会を活動の主体として地元保育園での農業体験に取り組んでいる。年間複数回にわたる農業体験の実施後、園児から同体験のなかで育てたタマネギを使ったカレーパーティーに招待されるなど、心温まる交流が図られている。

ＪＡ尾道市・世羅支店は、地元の祭り「大見よってけぇ祭」への出店や、地元の世羅高校・陸上部の全国大会出場にあわせて職員によるユニフォームを模したビブスの着用や展示会を開催するなど、地域社会の一員としてその盛り上げに献身的に努めている。

ＪＡ広島市・矢野支店は、支店ふれあい委員とともに多くの活動に取り組んでいる。幼稚園児にはサツマイモの収穫体験、小学校５年生には豆腐づくり教室、ＰＴＡには手作り味噌講習会というように、多様な対象者に対してそれぞれに合わせた活動を展開している。

ＪＡひろしま・作木支店は、高齢化率５割強の地域でグラウンドゴルフ大会を通じた健康増進や交流に取り組むとともに、同地域の特産品である梨や女性部お手製の「エコたわし」を支店感謝デーでのプレゼントにするなど、ＪＡらしい感謝デーを実践している。

以上の内容を踏まえて、審査委員会では最優秀賞にＪＡ広島市・矢野支店、優秀賞にＪＡひろしま・作木支店、優良賞にＪＡひろしま・西条支店を選んだ。

本コンクールは今年度で３回目である。次年度以降、参加ＪＡ・支店が拡大すること、そして活動がさらなる進化を遂げることを大いに期待する。

令和６年９月 30 日

第３回 令和６年度

軌跡

ＪＡグループ広島

支店協同活動コンクール

受賞支店

最優秀賞　ＪＡ広島市 矢野支店

- 『支店と協力組織で育む次世代との関わり』
- 『支店組織の参画する集大成「矢野町農業祭」の復活』

優秀賞　ＪＡひろしま 作木支店

- 『グラウンドゴルフ大会』
- 『支店感謝デー・「梨」プレゼント企画』

優良賞　ＪＡひろしま 西条支店

- 『ふれあいギャラリー』
- 『寺西小学校 ①田植え体験学習 / ②米作り体験学習』

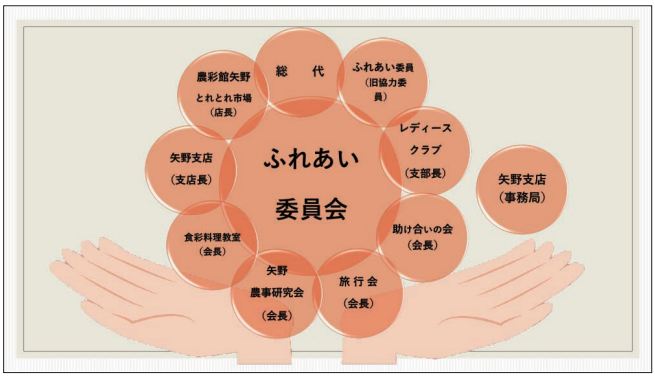
最優秀賞

ＪＡ広島市 矢野支店

活動① 支店と協力組織で育む次世代との関わり
活動② 支店組織の参画する集大成「矢野町農業祭」の復活

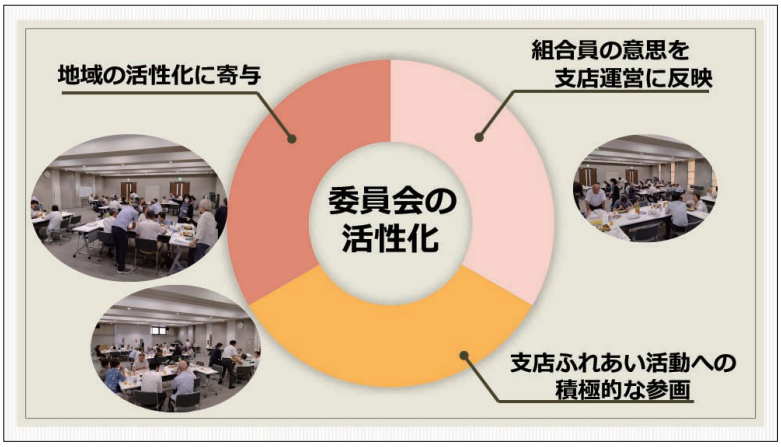
〈発表者〉
渉外専任担当課長
八反田 益光

「支店と協力組織で育む次世代との関わり。活動でのファン作りが組織の基盤を支える」



矢野支店のふれあい活動は、協同する多様な組織がなんと ９ つもあります！矢野支店の「ふれあい委員会」は、その代表者で構成されており、言わば ふれあい活動のエンジンとなっています。私の支店での業務は融資担当ですが、職員全員参加のもと、ふれあい活動に取り組んでいますので、今回支店職員を代表してご紹介させていただきます。

私の勤務する JA 広島市矢野支店の管内は、山に囲まれた谷間の川沿いに住宅・商業エリアが広がっており、広島湾に面しています。広島と呉を南北に結ぶ国道と JR 呉線が通り、交通の利便性も高いことから、大型スーパーや飲食店などが立ち並び、人口も増加傾向にあります。支店の敷地内には農産物直売所「農彩館矢野とれとれ市場」が隣接し、矢野農事研究会のコーナーをはじめ、管内産・県内産の農畜産物を販売しており、地産地消の推進拠点となっています。



矢野支店「ふれあい委員会」は、今ご紹介した「農彩館矢野とれとれ市場」や「矢野農事研究会」のほか、「レディースクラブ」や「助け合いの会」、「旅行会」「食彩料理教室」「総代」「旧協力委員のふれあい委員」「矢野支店」の ９ つの組織役員が集まり年 ２ 回、委員会で活発な意見交換や交流を行いながら組織活動を活性化させています。運営要領に「組合員の意思を支店運営に反映、支店ふれあい活動への積極的な参画を求めながら、地域の活性化に寄与すること」を目的と定め活動しています。支店ふれあい活動の年間計画は、ふれあい委員会での総括も参考にして策定され、令和５年度は長く続いたコロナ禍から〝コロナ前への復活〟も、大きなテーマとなっていました。ふれあい委員会に属する組織で協議され、実施された活動『支店と協力組織で育む次世代との関り』をご紹介します。

昨年５月、地元の矢野幼稚園から支店に「園児のサツマイモ植付・収穫体験」の依頼があり、矢野農事研究会、営農指導員と共に企画しました。普段「農」にふれる機会の少ない支店職員も多いですが、園児とのふれあい、農事研究会の会員と一緒に参画する食農体験を、支店の新入職員と一緒に行うことができました。

サツマイモが保存食となることを知る農事研究会の方、営農指導員から、SDGsの理念「飢餓をゼロ」へ通じる体験を伝えていただく場となり、園児達にも非常に良い体験になったと思います。土壌作りから収穫までの圃場管理を含め、農事研究会の方には心から感謝しています。本店広報課も取材に訪れて当日の様子が農業新聞の記事になり、支店広報紙でもふれあい活動の一環として継続してご紹介しています。

また矢野小学校からはPTAの方々を対象としたみそ作りと、106名の５年生を対象とした豆腐作りについて依頼があり、レディースクラブ矢野支部と支店の担当職員、本店地域ふれあい課と小学校とで協議を重ねました。普段より食農教育を学び、小学校で育てた地産地消の大豆も活用することで、SDGsの理念「質の高い教育をみんなに」を共に実践する意義ある活動となりました。調理過程でできる豆乳やおからなども、子ども達に味わってもらい「無駄になる素材は何もない」という本質を伝える事ができました。後日、これらの活動に対し子ども達からお礼の手紙が届きました。事前にリハーサルを重ね、当日の安全にも目を配ったレディースクラブ会員のご苦労が笑顔に変わった瞬間となりました。またＰＴＡの方はその大半が組合員外の方でしたので、支部会員とのみそ作りを通じた、このふれあい活動を継続することは、ＪＡにとって競合の多いこの地域で少しずつ認めてもらい、活動でのファン作りが組織の基盤拡充になると思っています。

次に安田女子大学から依頼された職場見学の実習生 26 名の受入れは、ＳＤＧｓ「働きがいも経済成長も」に通ずるプログラムにしようと矢野支店で考えました。支店の特性を活かし、隣接する農彩館矢野とれとれ市場にも支援を要請、職員のアイデアも盛り込んで独自性のある内容で実施することとなり、中でも特筆は職員が強盗役に扮した防犯訓練でした。他にも管内農産物の説明、ＪＡ事業や支店の業務などを学生に伝え、お札を数える「札勘」スピード対決などの体験してもらいました。これから社会に出る学生に、食料自給率向上の大切さを伝えることもでき、将来ＪＡ広島市を就職先に選んで頂けるといいなぁと思いました。

このほか、地域貢献活動の一環として、支店職員が地元の法人会とともに取り組んだ「朝のあいさつ運動」。600 名を超える矢野中学校の生徒が登校する際に、校門付近で年２回行いました。また農彩館矢野とれとれ市場では、地元にある子ども食堂の親子に対し、プランター夏野菜作りを実施。営農指導員の協力の下、成長中の野菜について説明、調理して食す機会を提供しました。

ここまでお話しした、私の支店で行われている「次世代との関り」は、その世代毎に合わせた内容で考えられており、それが支店職員だけでなく、ふれあい委員会のメンバーが参画してくださるのが大きな特徴です。もちろん活動の総括もされて、翌年度への意気込みも、おのずと強くなっています。支店職員とふれあい委員会に属する組織が地域と関わり、次世代と関わる中で、お互いの交流によって、次のステップに進んだといえるのが次にお話しする、４年ぶりに復活した「矢野町農業祭」です。

農業祭といってもＪＡ広島市では全域で行う形でなく、地域毎や支店が単独で開催するケースが大半です。矢野町農業祭は支店が単独支店開催で行う農業祭の１つです。その特徴は、主催する農業祭推進委員会に、ふれあい委員会に属する組織団体の大半が協賛に加わり、地域の漁協や行政機関、ふれあい活動でご縁のあった矢野幼稚園も加わって、いわばふれあい活動の縮図となっています。農業祭会場の一角に、コロナ禍前と同様に矢野幼稚園ブースを設け紙芝居と野菜の折り紙コーナーへ先生方が快く参画いただき、盛り上げてもらって大変感謝しています。これまで続けてきた園児とのサツマイモの植付、収穫体験や、農彩館矢野とれとれ市場で発信し続けている食と農の活動の成果が少しずつ身を結んでいます。矢野幼稚園が祭りに参画した事によって、通園する親子連れが来場する相乗効果に繋がり、その保護者の中に「土日は営業している直売所には来店したことはあっても、信用・共済事業について関心はなかった」「ＪＡの事業内容を初めて知った」という若い世代の方を中心に共済契約や積立 NISA の加入に繋がったほか、マイカーローンのお問い合わせも多数頂いております。祭りに携わった各組織からは「祭りの成功が町全体の結びつきを強める」という意見が総括となり、意義深い活動が次回にも活かされることとなりました。

ふれあい活動は地域からの期待も大きいですが、重要な事が３つあると思います。1 つ目にふれあい委員会は、組合員や員外を含めて構成されており、たくさんの方に積極的に参画してもらうこと。2 つ目に地域活性化という目標に向かって何をするのか、何が出来るのか。その行動手段が支店ふれあい活動です。一口に「地域活性化」といっても、支店毎で目標が色々あると思いますのでその対象と活動を明確にし取り組むこと。３つ目に活動終了後は課題を整理しその意見や反省を今後に活かしていく事と考えています。
次年度の活動に向けた改善など課題はまだまだありますが、それを楽しみに変えて、支店の職員としてこれからも実行していきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

優秀賞

JAひろしま 作木支店

活動① グラウンドゴルフ大会

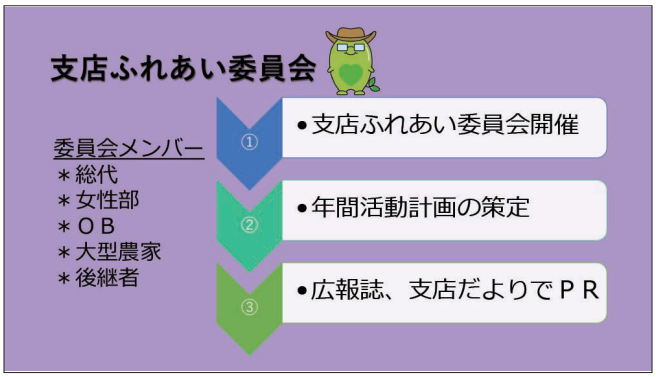
活動② 支店感謝デー・「梨」プレゼント企画

〈発表者〉

支店長

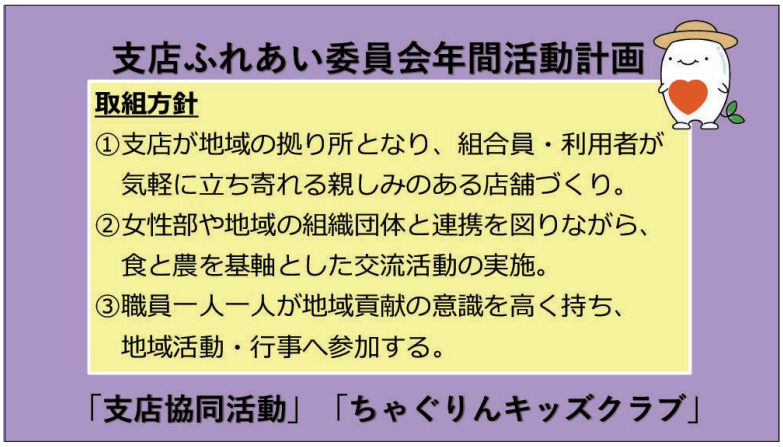
前田 恭央

「活動はＪＡと組合員・地域をつなぐ架け橋。地域の拠り所となる支店を目指したい」



私の勤務する支店がある作木町は広島県の北部に位置し、江の川に沿って南北に細長く伸びた、人口1,099人の小さな町です。作木支店の近くには、広島県で唯一日本の滝百選に選ばれた、落差 126m の常清滝の大迫力の景色を楽しめるほか、絶滅危惧種である渡り鳥のブッポウソウの飛来が日本一多い町でとても自然豊かなところです。

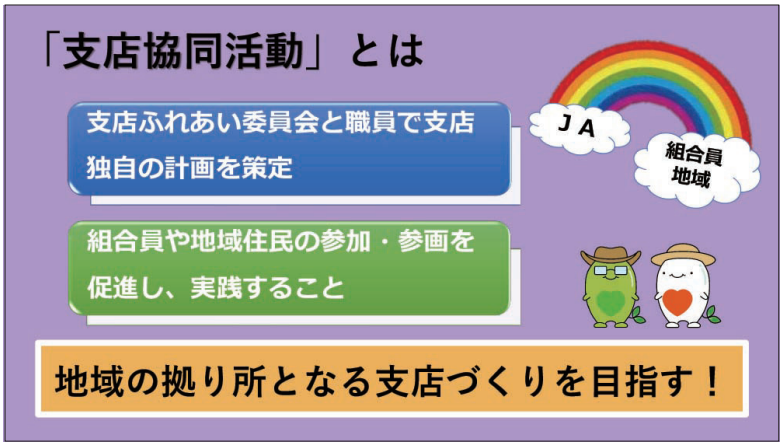
管内は令和６年３月末で正組合員 318 人、准組合員 140 人、人口 1,099 人に対し 65 歳以上が 566 人と高齢化率が 51.5%で三次市の中でも高齢化が進む地域です。“作木で高齢者といわれるのは 75 歳から” を掲げて元気な里を目指しています。基幹作物は水稲ですが、高齢化による離農、後継者不足、猪や鹿、猿、熊など有害鳥獣により年々集荷数量は減少しており、令和５年度は 7,626 袋の集荷となっております。また、地域の農畜産物では、梨、和牛などを中心に生産されています。そうしたなかで平成 28 年度より、組合員との徹底した対話に基づいて「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」 を基本目標とするＪＡ自己改革の実践に取り組んできました。自己改革を実践するため、年度初めに支店ふれあい委員会を開催し、年間活動計画を決めています。活動内容は広報誌や支店だよりで積極的に告知・紹介し、広く PR しています。昨年度はＪＡひろしまの合併初年度であったため、年度初めにふれあい委員会を設立できないままでしたが、職員のアイデアや思いを活かして年間活動計画を考えて行ってきました。ちなみに、今年度のふれあい委員会は総代、女性部、OB、大型農家、後継者などを中心に構成し、それぞれの立場や意見、要望を聞き、新しい計画を策定しています。



取組方針は合併前から引き続き、３つの柱を軸に策定しています。１つ目は支店が地域の拠り所となり、組合員・利用者が気軽に立ち寄れる親しみのある店舗づくり。２つ目は女性部や地域の組織団体と連携を図りながら、食と農を基軸とした交流活動の実施。３つ目は職員一人一人が地域貢献の意識を高く持ち、地域活動・行事へ参加することです。この３つを掲げ、「支店協同活動」と「ちゃぐりんキッズクラブ」の大きく２つに分けて具体的な取り組みを計画しています。

支店協同活動の主な取り組みは、年２回開催の「グラウンドゴルフ大会」、「支店だより」の発行、「支店感謝デー」の開催、地域行事への参加も行っています。また、平成13年度より始まった食農教育「ちゃぐりんキッズクラブ」は小学校、保育所、女性部、地域住民と連携して取り組んでいます。私たちも子どもたちからたくさん元気をもらっています。

支店協同活動について紹介します。最初に、年２回開催している「グラウンドゴルフ大会」です。作木町には全天候型・芝コースを含め４面のグラウンドを備えた公園があり、雨を気にすることなくグラウンドゴルフを楽しむことができ、とても盛んに行われています。平成22年より始まった大会は作木町グラウンドゴルフ協会のご協力のもと、盛大に開催され、メンバーの入れ替わりはありますが、毎回40人が参加してわいわい賑やかに楽しいひとときを過ごされています。グラウンドゴルフは高度な技術を必要とせず、子どもから高齢者まですべての人が楽しめます。昨年の大会では、参加者の最高齢91歳の方が男性の部で優勝されました。参加者からは「毎年、このグラウンドゴルフ大会が楽しみなんよ」、「この日のために体調を整えたんよ」と好評をいただいております。また、支店職員も参加し、みなさんと親睦を図ります。ＪＡと普段あまり関わりのない方と話をすることができ、大会後に窓口に来られたり、貯金の相談などもあったりとＪＡ事業につなげることもできました。今年も地域のみなさんにグラウンドゴルフ大会へ積極的に参加していただき、支店の職員と親睦を図り、親しみのある支店づくりを行っていきたいと思います。



次に年３回実施している「支店感謝デー」の紹介です。９月は作木町の特産「梨のプレゼント企画」、12 月は「クリスマス」、２月は「バレンタインデー」など季節に合わせて開催します。梨のプレゼント企画は、第９次営農振興計画に基づき、作木の特産品を活用した消費者交流の一環で令和４年度から支店感謝デーとして実施しています。梨は作木果樹園芸組合と（株）高丸農園に協力をお願いし、化粧箱入りの梨を用意していただきました。たくさんの応募があったため、抽選を行い当選者へ贈呈しました。とても立派な梨で当選者の方は喜ばれ、地元の特産として再認識されていました。高丸農園の梨は令和５年に「みよしブランド」に認定されました。このブランドは、三次市を代表する産品などで特に優れたものに対して認定されます。作木町特産の梨をぜひ一度味わってみてください。また、12 月と２月の支店感謝デーでは素敵なプレゼントを用意し、来店者をお迎えします。12 月は女性部のみなさんのご協力のもと、家の光で掲載されたエコたわしを作っていただき、来店者に感謝の言葉を添えてプレゼントしました。大雪の影響で充分な告知ができませんでしたが、年末ということもあり、たくさんの方に感謝の気持ちを伝えることができました。２月は支店職員手作りの小物入れにお菓子を入れてプレゼントし、来店者のみなさんに喜んでいただきました。

今年度の新たな取り組みとして、ふれあい委員会のメンバーから「空き事務所を利用してみんなが気軽に集まれる場を作りたい」と提案があり、月１回「ふれあいカフェ」を開催することにしました。地域のみなさんの親睦や要望があればＪＡからの情報提供も行います。６月に開催した「ふれあいカフェ」では職員による NISA についての話や営農相談もあり、「ゆっくり話を聞くことができて、とても勉強になった」、「次も参加したい」などの声もいただきました。地域住民同士がＪＡとの良い交流の場になればと思っています。

あらためて支店協同活動と問われると、「ＪＡと組合員、地域をつなぐ架け橋」、まさに現在取り組んでいることが当てはまると思います。課題はいろいろありますが、今後も支店ふれあい委員会と職員で支店独自の計画を策定し、組合員や地域住民の参加・参画を促進し、実践することで、地域の拠り所となる支店づくりを目指したいと思います。

優良賞

ＪＡひろしま 西条支店

活動① 寺西小学校 田植え体験学習

活動② ふれあいギャラリー

〈発表者〉

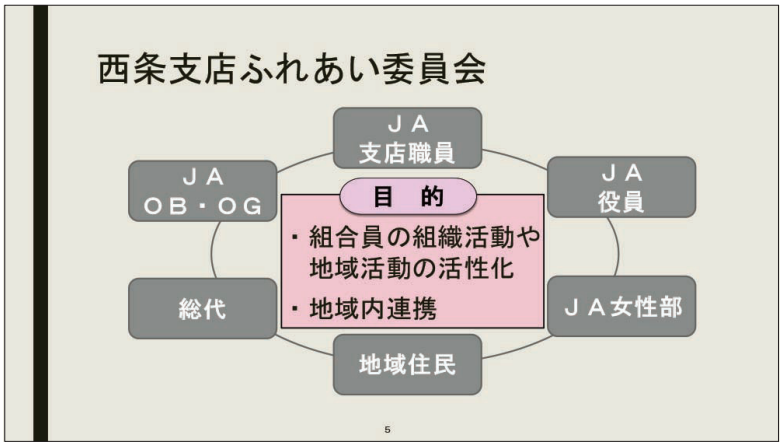
塔迫 紗良

木村 早紀

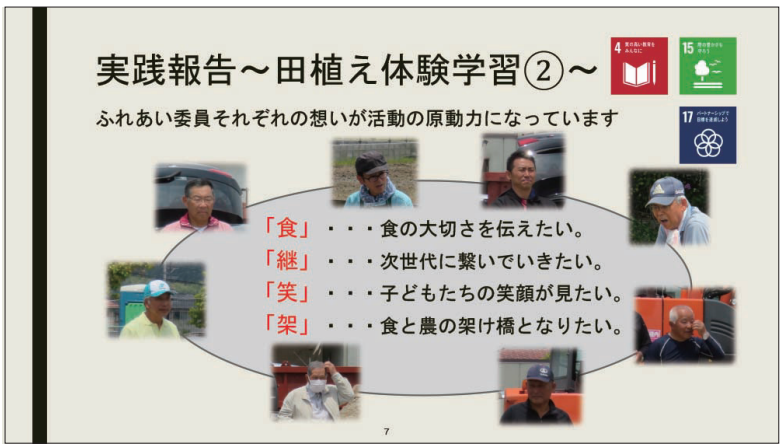
「支店協同活動は、ＪＡ事業と表裏一体。皆様の暮らしに寄り添い、ともに歩んでいきたい」

西条支店は、東広島市西条町にあるＪＡひろしまの本店１階にある職員数 23 名の支店です。広島県の中央部に位置し、中心地の西条は日本有数の日本酒の産地で、兵庫の灘、京都の伏見と並ぶ、日本三大酒どころとして有名です。酒蔵が軒を連ねる酒蔵通りには白壁やなまこ壁、赤レンガの煙突など独特な建物が建ち並び、毎年 10 月には酒まつりが催され多くの観光客が訪れます。東広島市の人口は約 19 万人で４割強が西条町の人口です。教育機関では広島大学があり、学園都市としても有名です。

組合員は正准合計で 6,450 人、青壮年組織 64 人、女性組織 377 人という状況です。次に西条支店のふれあい委員会ですが、ＪＡの OB・OG・女性部・総代・地域住民の 13 名と職員の事務局４名で構成されており、組合員の組織活動や地域活動の活性化と地域内連携を目的に支店協同活動を行っています。



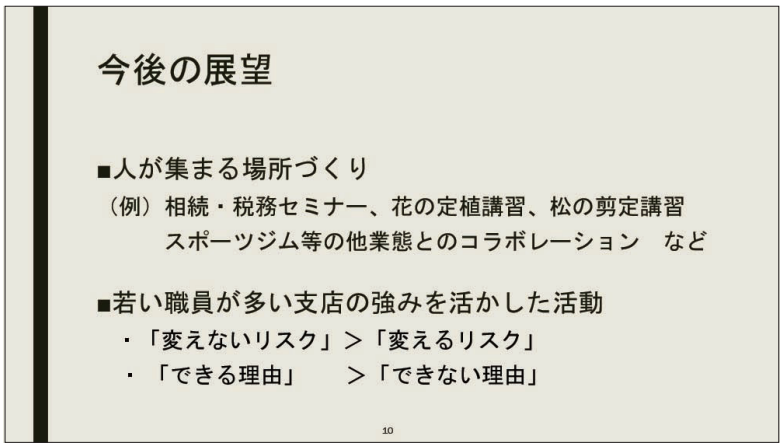
次からは昨年度の支店協同活動の実践報告に移らせていただきます。昨年の６月に東広島市立寺西小学校の５年生 130 名を対象に「田植え体験学習」を行いました。ふれあい委員の指導の元、児童が一列となり、一株ずつ田植えをしていきました。私自身もこの田植えに参加して何人もの児童とお話をしましたが、これまで素足で泥の中に入ったことや田植えを間近で見たことのない児童がほとんどで、児童にとっては初めて尽くしの体験となりました。最初は悪戦苦闘していましたが、徐々に要領を得て手際よく田植えをしていく児童たちを見て、私も小学校の時にバケツ稲で注意深く苗の成長を見守っていたことを思い出しました。当日はふれあい委員のみなさんも大忙しでしたが、児童を見守る姿に、委員それぞれの想いを感じることができました。“食の大切さを伝えたい”、“次世代に繋いでいきたい”、“子どもたちの笑顔が見たい”、“食と農の架け橋になりたい”とそれぞれの想いがありました。これは後日談になるのですが、田植え体験をした息子が秋の稲刈りをとても楽しみにしているとこれまでＪＡと取り引きのなかった保護者の方が来店されるきっかけとなり、新たなＪＡとの結びつきが渉外担当者の訪問活動のきっかけ作りになっています。

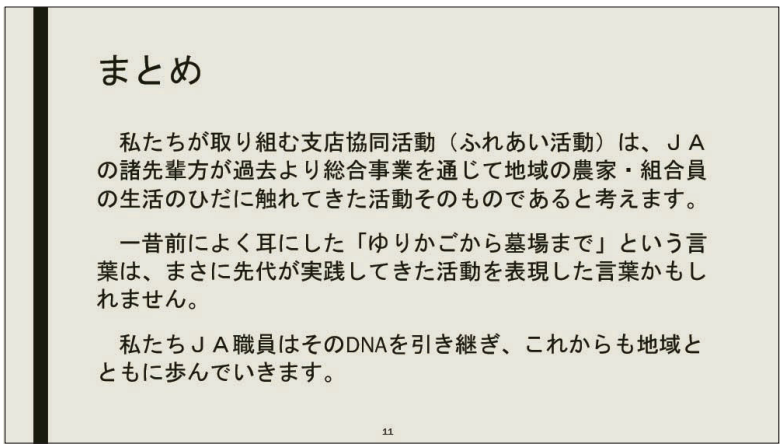


次に２つ目の実践報告として「ふれあいギャラリー」を紹介させていただきます。地域で活動する個人・団体の方の個性豊かな作品を展示するコーナーを設けることで教育と文化の香り高い支店づくりを目指しています。作品は写真や水墨画、木工アート、刺繍など多岐に渡りますが、作品を発表する場を提供することにより、来店者に癒しの空間を提供してくれています。この作品展示に力をもらっているのは来店者の方々だけでなく、私たち支店の職員も慌ただしい業務の側、ふと作品に目がいくことで束の間の癒しや心の余裕をもらっています。

こちらのスライドは、ギャラリー出展者との交流を目的に行ったインタビューの中から、「西条中央フォトクラブ」と「墨游会」の２つのグループにインタビューした時の写真です。私を含め支店の 20 代の職員６名がそれぞれペアになって各グループにインタビューを行いました。最初は堅い雰囲気で始まったインタビューでしたが、出展者のみなさんのユーモアが私たちの緊張をほぐしてくれたことが印象的でした。インタビュー前はこちらの２つのグループだけでも一部の方しかお顔がわかりませんでしたが、インタビュー後は私たちが相手のことを知れただけではなく、これまで単にＪＡさんと呼ばれていたのが、「塔迫さん！」と名前を呼んでいただけるようになったのです。些細なことかもしれませんが、私にとっては支店協同活動に従事するＪＡ職員として、ＪＡとつながりのある方との関係性を発展させていくスタートラインに立った気持ちになりました。

インタビューからしばらく経った頃に渉外担当者が出展者の息子さん宅を訪問した際、作品の出展を楽しみにしている父の姿を見て、息子としてもとてもうれしいと気持ちを打ち明けていただき、この取り組みによって関係構築が前進したことを肌で感じました。





今後の支店協同活動として、地域のみなさんから必要とされる情報の提供や希望する催しの実現に向けて活動してまいります。例えばスポーツジムなどの地域の他業態と協働で、これまでになかった新たな取り組みについて模索していきたいと考えています。これは支店長の考え方でもあるのですが、若い職員が多い西条支店だからこそできることは何なのかを考えた時、若い職員にリーダーを任せることとおっしゃっていました。若い職員が日常業務を離れて地域の活性化に向けた取り組みの先頭に立つことは、協同組合人としての成長を促すいい機会になるからです。ＪＡを取り巻く環境が大きく変化する中で従来の思考や事業運営の踏襲では、変えるリスクよりも変えないリスクの方が大きいこともあるということを支店協同活動においても認識しなければなりません。西条支店は新しいことにも積極的に取り組んでいきます。変化への対応は厳しい現実と向き合うことから始まります。地域やＪＡの 10 年後はどうなっているのだろうという危機意識は改革や改善の動機づけを生み、できない理由よりできる理由を考えるようになります。

ここにいらっしゃるみなさんは、「ゆりかごから墓場まで」という言葉に親近感と懐かしさを感じられる方も多いのではないでしょうか。私がこの言葉を聞いた時、ＪＡにどう関係し何を意味しているのかまったくわかりませんでした。しかし、ＪＡでの経験が一日一日と積み重なるごとに少しずつではありますが、言葉の意味のニュアンスや言い表していることがわかるようになっていき、実際に支店協同活動に参加したことによって理解のスピードが加速したように思います。ここに書いてあることは私個人の意見ではなく、20 ～ 30 代が集まった会議で辿り着いた意見です。支店協同活動という言葉に若い職員は何か特別なことをしなければいけないと思っていました。しかし、支店長をはじめとするＪＡの諸先輩が歩んできたこと、取り組んできたことを耳にし、実は特別なことではなく、ＪＡの事業と表裏一体の行為であり、地域の人々の暮らしや人生で起こりうるあらゆる出来事に寄り添うことそのものの行為なのです。私たちＪＡ職員は先輩方の DNA を引き継ぎ、これからも地域とともに歩んでいきます。

年間活動一覧

活動報告書

プレゼンテーション資料

JA広島市 矢野支店

年間活動一覧

令和5年4月～令和6年3月

	活動名	新規/継続	開催月日	参加者層・人数	内容
1	**第20回 ふれあいテント村**	継続（復活）	5月20日	助け合いの会5名 支店職員13名 来場者80名	主催：助け合いの会・矢野支店 地域の皆様に楽しいひと時を提供 レディースクラブ各教室発表 来場者参加型の踊り
2	**矢野幼稚園 サツマイモ植え 収穫体験**	継続	①6月9日 ②10月25日	矢野農事研究会7名 矢野支店職員2名 営農指導員1名 矢野幼稚園15名	幼稚園児と一緒にサツマイモ植え、収穫の実施。
3	**ふれあい旅行**	継続	①6月26日 ②12月6日	旅行会55人 ①31名参加(うち職員2名) ②23名参加(うち職員2名)	年2回のふれあいを目的とした旅行。
4	**朝のあいさつ運動**	新規	①9月6日 ②2月22日	矢野中学校2名 矢野支店職員3名 広島安芸法人矢野支部3名	矢野中学校付近で、登校する学生に「朝の挨拶運動」として、職員が地域の一員として参加。
5	**ふれあい委員会**	継続	①11月2日 ②2月22日	ふれあい委員会所属 7団体28名 役職員20名	農業祭開催における各団体へ協力のお願い、また2月には一年間の活動報告、ならびに一年間のお礼、職員との交流。
6	**第34回矢野町農業祭**	継続（復活）	11月26日	ふれあい委員会所属 3団体82名 矢野支店職員30名 町内3団体30名 来場者 約800名	農産物販売と品評会、レディースクラブ作品展示、地元幼稚園による紙芝居で食育啓発、縁日・飲食販売コーナーなど。
7	**安田女子大学職場体験**	新規	12月26日	農彩館矢野とれとれ市場、矢野支店職員合計23人 安田女子大学1年生26名	矢野支店と農彩館矢野とれとれ市場を見学実習。管内農産物の説明や支店業務を学び、「札勘」や職員が強盗に扮した防犯訓練を体験。
8	**矢野小学校 PTA 手作り味噌講習会**	継続（復活）	1月16日	LC矢野支部7名 矢野小学校PTA8名 支店職員1名 地域ふれあい課0名	レディースクラブ会員でない小学生の保護者を対象とし、味噌づくりを通じて、地産地消の学びはもちろん、JAファンへのきっかけ作りとする。
9	**矢野小学校5年生 豆腐作り教室**	継続（復活）	2月1日	LC矢野支部8名 矢野小学校5年生106名 支店職員2名 地域ふれあい課2名	児童が学校で育てた大豆も使って豆腐作り。
10	**支店広報紙発行**	継続	4月～3月 計12回	1,600枚/月 ×12ヶ月	農家組合員の方を毎月連載、職員も毎月登場するなど、ローカルで身近な話題を提供。裏面は農作業情報を紹介している。

	活動名	新規/継続	開催月日	参加者層・人数	内容
11	**レディースクラブ 支部活動**	新規 継続	４月～３月 計１３回	レディースクラブ 矢野支部 ６７人	料理教室、ケーキ作り、農業祭、お楽しみ会など。
12	**レディースクラブ 教室別活動**	継続	４月～３月 計１３２回	各教室メンバー所属 ６７名	書道、フラダンス体操、着物着付、絵手紙工作、洋服リメイクの各教室。
13	**生産技術の向上と 地産地消啓発**	継続	４月～３月 計１３回	矢野農事研究会 37 名 職員２名(営農指導員含)	農談会、季節野菜の管理方法勉強会 現地視察研修、農業祭出品。
14	**食彩料理教室**	継続	４月～３月 計６回	食彩料理教室 10 人 役職員 ４名	「農」の専門家である農事研究会の会員も在籍し、旬な食材を使って、毎回新しい献立で行う、男女混載型の料理教室。
15	**農彩館矢野とれとれ市場 (ファーマーズマーケット) ☆うまいもんフェア**	新規	5月 11~14 日	職員 13 名 ①総得票数　４名 ②進徳女子高生 SDGs部　４名	①G7 ひろしまサミットにちなみ、広島近郊７大葉物野菜の人気投票「葉物野菜総選挙」を実施。 ②進徳女子高生ＳＤＧｓ部による「コオロギの粉末入りクッキー」販売。
16	**農彩館矢野とれとれ市場 (ファーマーズマーケット) ☆ミニ田植え・稲刈り体験**	継続	６月３日 10 月 14 日	職員４名 ①保育園児・小学生 12 名 ②同　12 名	店外に設置した発泡スチロール容器に花田植えの飾り牛のお面や早乙女の傘をかぶった子どもたちが田植え・稲刈り体験。
17	**農彩館矢野とれとれ市場 ☆矢野の家(子ども食堂) ～食の支援活動～**	新規	７月２日 ８月４日	職員３名(営農指導員含) ①保育園児・小学生 13 名 ②同　15 名	子どもを含め多世代が繋がる居場所づくりを行う「矢野の家」とともに、食や農の大切さを次世代に伝える食農教育活動。 ①夏野菜定植 / プランターにシカクマメ白ゴーヤ、キュウリ ②親子料理教室 / 収穫し、サラダパンケーキ・浅漬にし食した。
18	**農彩館矢野とれとれ市場 ☆消費者参加型イベント**	新規	７月 15 日	職員４名 来場者 325 名	子ども対象のスイカ割り体験など。
19	**農彩館矢野とれとれ市場 ☆管内産小豆のＰＲ**	新規	１月 20 日	職員３名 来場者 311 名	管内産小豆のぜんざいをプレゼント (先着 100 名)
20	**農彩館矢野とれとれ市場 ☆周年祭**	継続	３月７～９日	職員 14 名 来場者 1574 名	広島県内産野菜の特別価格販売、 来場者プレゼント。

活動
報告書①

『支店と協力組織で育む次世代との関わり』

継続活動

参加者層・人数	幼稚園児（１５名）、小学生（１０６名）、中学生（４５０人）、大学生（２６名）、本支店職員（３４名）、営農指導員（1 名）、農事研究会（7名）、レディースクラブ（１５名）
活動・開催等期間	令和５年６、１０月（幼稚園）、令和６年１月（小学生）、令和５年９月、令和６年２月（中学生）、令和５年１２月（大学生）
開催場所	矢野支店、農彩館矢野とれとれ市場、各教育機関および周辺
周知方法	各教育機関による
活動内容（計画）	「支店を拠点としたふれあい活動や地域活動について協議し遂行すること」を会の規約に定める矢野支店ふれあい委員会では、同会に所属するレデースクラブや農事研究会など、各組織の活動を共有しながら委員会を活性化させている。地元の教育機関から依頼される食農教育などに対しＪＡはもちろん各組織が最大限協力をし、取り組みにあたっては資材の仕入れや生育までの管理など先方との打ち合わせも行い、本店職員、営農指導員も支援している。
計画策定に参画した個人（ＪＡ職員以外）や団体	矢野農事研究会＆矢野幼稚園、レディースクラブ＆矢野小学校、矢野中学校、安田女子大学
経費等	矢野農事研究会０円、矢野幼稚園 3,250 円、レディースクラブ０円、矢野小学校 3,000 円、矢野中学校０円、安田女子大学 3,640 円
活動内容（実施段階）	幼稚園児とのさつま芋植え・収穫には農事研究会の方と共に職員も活動、研究会の方には圃場管理も快く受けていただき、園児には 1 つのことを成し遂げた満足度と、食に対する大切さを伝えました。 安田女子大学から依頼された見学実習では、ＪＡの存在意義を座学研修として“ふれあい委員会に代表される協同組合”を学んで頂き、職員が独自に考えたプログラムで信用事業の体験と職員が強盗役となった防犯訓練、また隣接する農彩館矢野とれとれ市場にも依頼し実習体験を行いました。 この他、矢野中学校付近で「朝のあいさつ運動」や矢野小学校でのＰＴＡみそ作り、小学５年生と豆腐作りなど、各組織が活動した内容は年２回行うふれあい委員会でパワーポイントを使って活動報告を披露し次年度に活かしている。

活動に対する効果	幼稚園児の保護者の方が矢野支店、農彩館矢野とれとれ市場のご利用頂く機会が多くなり、夏場には広島県産柑橘果汁入り飲料、冬場には贈答用の広島菜漬を購入頂けるようになった。(矢野幼稚園) 小学５年生の豆腐作りはコロナ禍で休止していた活動で念願の復活となり、事前打合せを経て当日はレディースクラブ会員が講師として活躍した。(矢野小学校) 就職活動においてＪＡ広島市を希望される生徒も見受けられ、企業としての次世代への取組みもできた。(安田女子大学)
参加者の声	レディースクラブからは矢野小学校との頻繁な連絡がなかなか難しかった、との感想があった。 矢野中学校からは教頭先生より朝早くからの対応にお礼の言葉があった。中学生から挨拶の呼びかけに「おはようございます！」と返事があった。 幼稚園園長先生からは今回の準備等について感謝のお言葉を頂いた。幼稚園児からは楽しそうな笑顔があふれていた。 安田女子大学の先生方からは、普段経験できないことをさせてもらい感謝のお言葉を頂いた。大学生の生徒からは、お金の取扱いについて質問があり、勉強になったと言われてました。
反省点・課題	大学生の職場体験においては、半日 (2 時間弱) という短い時間から、十分に説明が行き届いていない可能性もあり、今後改善も必要。 幼稚園児については「さつま芋」が恒例となっているが、昨今の６月の暑さから、春野菜などに変更し、体調面を考慮する必要があると思われる。

活動
報告書②

『支店組織の参画する集大成「矢野町農業祭」の復活』

継続活動

参加者層・人数	地元住民約 800 人、職員 30 人
活動・開催等期間	令和５年 11 月 26 日
開催場所	ＪＡ広島市矢野支店、農彩館矢野とれとれ市場
周知方法	新聞折込、店内外掲示板、窓口・渉外活動による周知
活動内容（計画）	支店ふれあい委員会に属する３団体（35 名）も含んで構成される「農業祭推進協議会」を事業計画に基づき実施。４年ぶりの祭開催となり前回を知る職員がいないため、会メンバーのご意見・ご要望も参考にし、本店や地域の協賛団体などから参画や支援を受けながら協議をすすめる。当日の万全を期すため本店部署等に職員の応援を初めて要請。また行政機関、地元農家、近隣駐車場確保や出店に賛同して頂ける事業者などへご理解とご案内を兼ねて挨拶を行う。
計画策定に参画した個人（ＪＡ職員以外）や団体	助け合いの会（５人）・農事研究会（37 人）・レディースクラブ（40 人）を含むふれあい委員会、行政関係者（15 人）、矢野漁協（10 人）、矢野幼稚園（5 人）
経費等	約 650,000 円
活動内容（実施段階）	開催にあたっては、予定していた会場内での「もちつき」、食品の「持ち帰り」は衛生上の問題として保健所から中止の指導、また「もちまき」は安全面から見直しが求められ、それらを補う代案を支店職員も考案し会議で提案。限られた予算の中、手作り感のある「縁日コーナー」を初実施。本店部署などからの応援で集まった職員も配置した。 ふれあい活動としてサツマイモ掘り・収穫で関わっている矢野幼稚園に参画してもらい「紙芝居」「野菜の折り紙」コーナーを「縁日コーナー」横に並べ来場者の動線を確保、多くの親子連れが訪れた。 高齢者の方の来場も意識し、行政機関による健康メニューの試食・健康相談会を１階に設置、休憩所も可能な限り設置した。また農業振興コーナーとして、農彩館矢野とれとれ市場（直売所）や行政機関と連携して「農産物品評会」コーナーを直売所横に設置、地元の野菜を総合的にＰＲした。開催後の総括としてふれあい委員会を開催、次年度に活かせるご意見をいただいた。

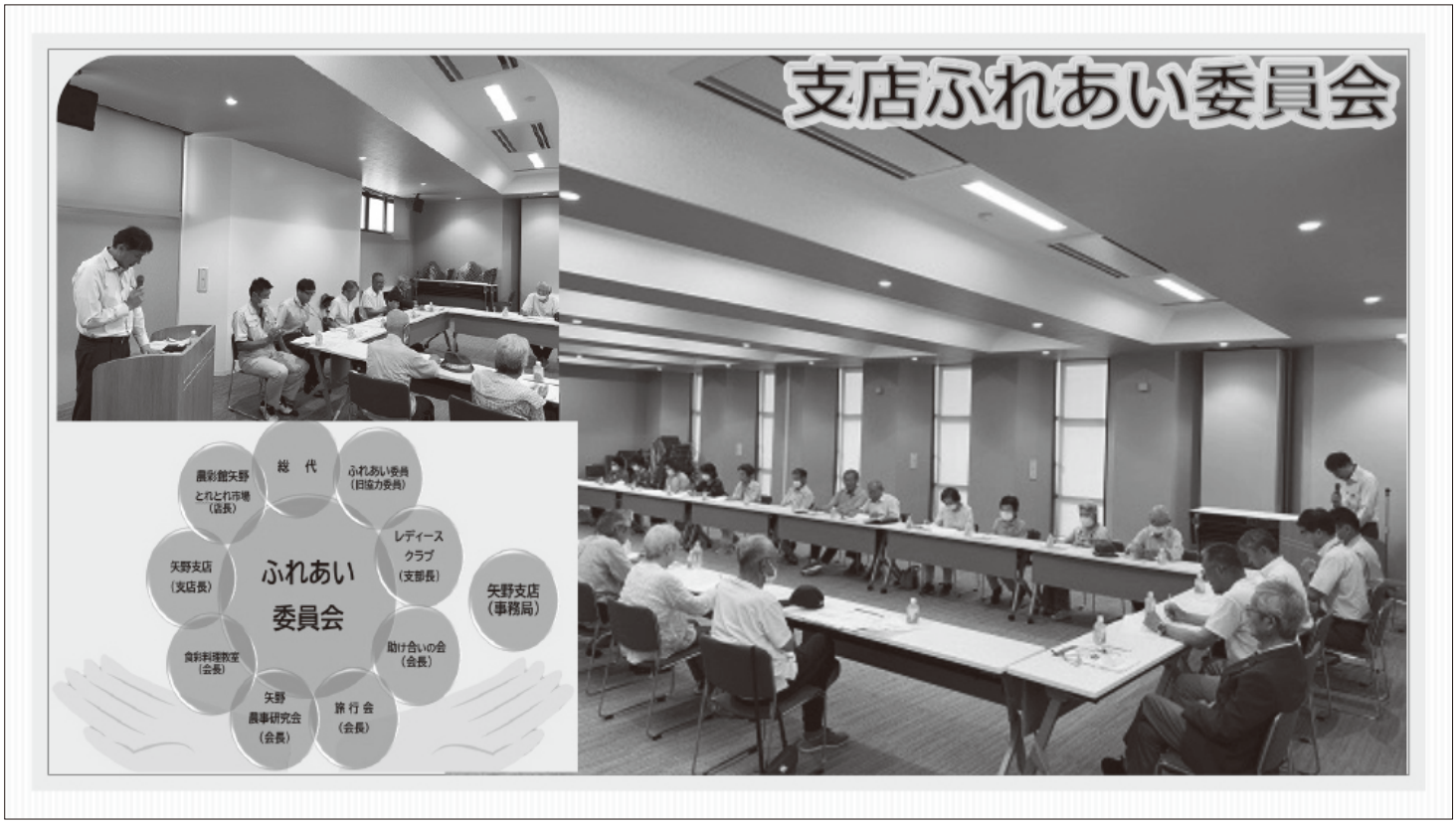
活動に対する効果	土・日営業する直売所に訪れることはあっても、信用・共済事業は初めてという若い世代の方を中心に、こども共済や年金共済の加入に繋がったほか、マイカーローンの問い合わせを多数頂いた。今回お祭りに参画いただいた矢野幼稚園に通う親子連れも来場され、ＪＡの総合事業を初めて知ったという方もおられた。 協議会として行われた総括では「祭りの成功が町全体の結びつきを深める」とメンバーで認識され、次年度にも活かされることとなった。
参加者の声	安芸区役所より、補助金申請のやり方について、ＪＡ側と相違があった。(支給日について)。来場者より、コロナ禍において地域の方々同士の繋がりが希薄となっていたため、久々に販売、食事、ゲーム、展示等を通じて有意義に過ごすことができてよかった。農業祭関係者、また来場者皆様からも、餅つき、餅まきができなかったことは残念、来年こそ復活できないか？との声が上がった。協議会側からは矢野支店近隣のイベントの把握 (特に海田自衛隊イベント) を事前に行い、開催日を 11 月末日の日曜日にこだわらなくてもいいのではないか？地元郷土鍋 (のっぺい汁) を提供していただいた農事研究会からは、ガス、水道水の配置において仕方のない部分もあるが、飲食販売についてレイアウトについて工夫をして欲しい。(売れ行きバラつきがある)
反省点・課題	１支店単独で行う農業祭は当組合では珍しくないが、支店が中心となって通常業務を行いながらの運営や準備は、なかなか容易ではない。支店は住宅地と商業地が密集する場所に立地し、来場者の駐輪場や関係者の駐車場の確保に苦慮する。来場者の方が楽しみにしていた餅つき、餅まきが保健所指導により実施できず、また設営費をはじめ材料費などの高騰で、同じ予算で前回（４年前）と同規模の実現は厳しかった。協議会で改善、又は代替できるイベント （ オールディーズバンド、神楽) などができないか？などが要望があったが、費用面、時間調整が必要であるため断念するとともに、来年度の課題となった。

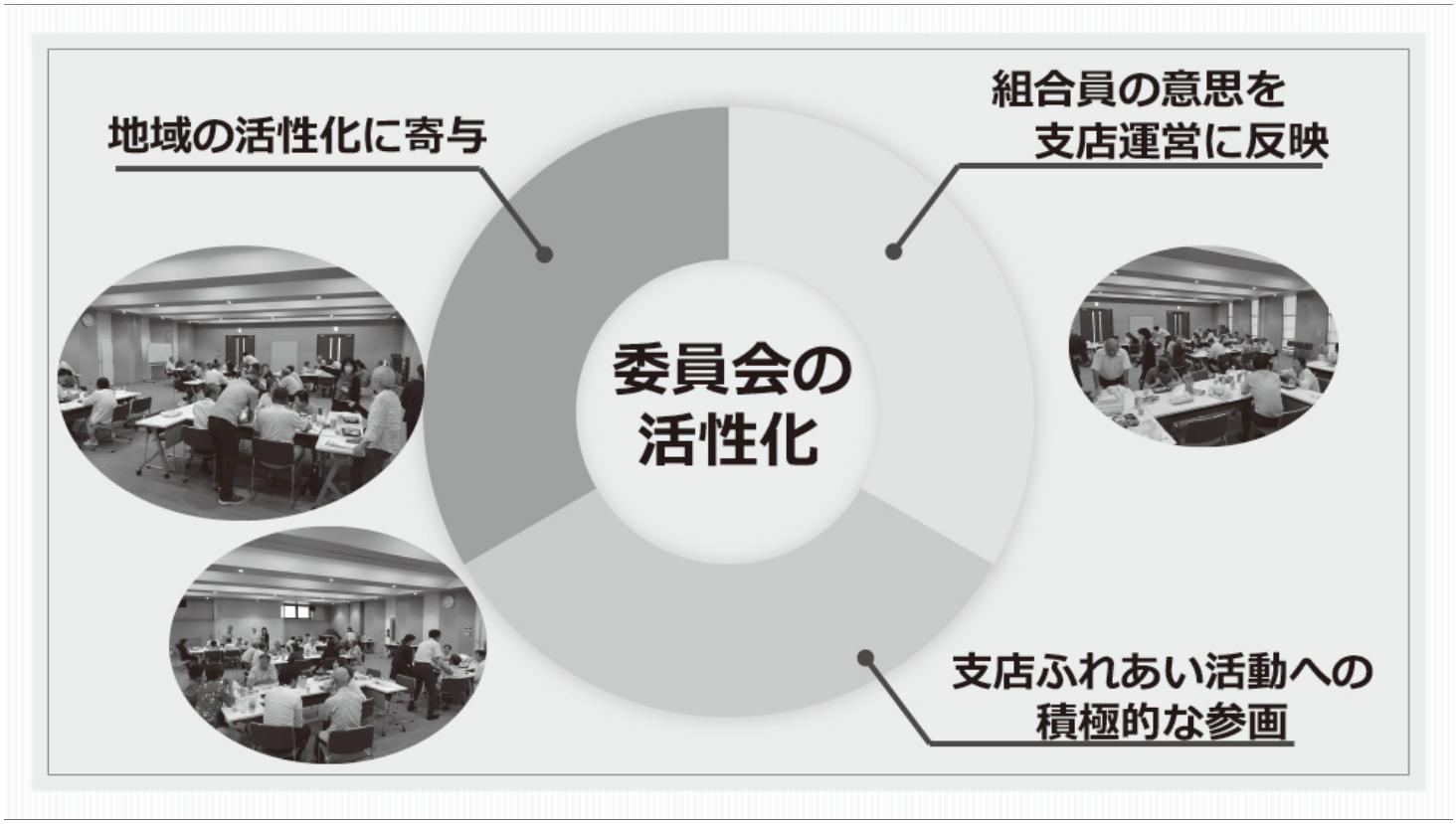
ＪＡ広島市
矢野支店

ふれあい
委員会
総　代
ふれあい委員
（旧協力委員）
レディース
クラブ
（支部長）
助け合いの会
（会長）
旅行会
（会長）
矢野
農事研究会
（会長）
食彩料理教室
（会長）
矢野支店
（支店長）
農彩館矢野
とれとれ市場
（店長）
矢野支店
（事務局）

54
可部線
1
府中町
広島市
487
3
廿日市市
坂町
熊野
31
31
31
呉市
487

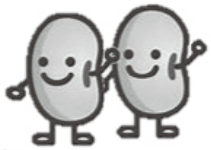
矢野農事研究会コーナー
JA広島市


支店ふれあい委員会
ふれあい
委員会
総　代
ふれあい委員
(旧協力委員)
レディース
クラブ
(支部長)
矢野支店
(事務局)
助け合いの会
(会長)
旅行会
(会長)
矢野
農事研究会
(会長)
食彩料理教室
(会長)
矢野支店
(支店長)
農彩館矢野
とれとれ市場
(店長)


地域の活性化に寄与
組合員の意思を
支店運営に反映
委員会の
活性化
支店ふれあい活動への
積極的な参画

テーマ：コロナ前への復活!!
COVID 19
支店と
協力組織で育む
次世代との関り

サツマイモの植付・収穫体験
できませんか？？？
矢野農事
研究会
食農体験を
やりましょう!!
営農
指導員



みそ作りや
豆腐作り体験で食農教育を！
『質の高い教育をみんなに』

矢野小学校

レディースクラブ矢野支部

矢野支店　担当職員

本店地域ふれあい課

象 PTA・保護者対 みそ作り

安田女子大学の皆さんの職場見学

朝のあいさつ運動

プランター夏野菜作り

～農彩館矢野とれとれ市場にて～

4年ぶりの開催
矢野町農業祭

広島市立矢野幼稚園
矢野幼稚園の
先生方のご協力、
ありがとうございました

JAバンクで
NISAを
はじめませんか？
資産運用
ガイダンス
こども共済
JAマイカーローン
2024年7/1(月)▶2024年9/30(月)
お申込み受付分まで
将来の自分のために積み立てましょう
ライフロード
予定利率変動型年金共済
年金共済

ご清聴ありがとうございました。
矢野支店
職員一同

JAひろしま
西条支店

年間活動一覧

令和5年4月～令和6年3月

	活動名	新規/継続	開催月日	参加者層･人数	内容
1	**ふれあいギャラリー**	継続	通期	地域住民　約16名	支店内にギャラリースペースを設け、地域の方が作成された写真や絵画、陶芸などの展示を行い来店者の憩いの場としての役割を担って頂いている。
2	**寺西小学校 田植え体験学習**	継続	6月	ふれあい委員会6名 JA職員　3名 児童　130名 住民自治協　10名	寺西小学校5年生児童による田植え体験学習の1回目として、ふれあい委員の方や営農指導員の指導の下、手植えによる植付作業を行った。
3	**2023 酒祭り**	継続	10月	ふれあい委員会5名 役員　2名 JA職員　40名	4年ぶりの酒まつり JA ふれあい会場となり、組合員・利用者、地域の方に日頃の感謝を込めての活動となりました。
4	**寺西小学校 米作り体験学習**	継続	10月	ふれあい委員会6名 JA職員　3名 児童　119名	寺西小学校5年生児童による米作り体験学習の2回目として、営農指導員の指導の下、鎌による稲刈りを行った。
5	**東西条小学校 花の定植学習**	継続	11月	ふれあい委員会5名 JA職員　4名 児童　178名	土に触れることのない子供たちや、花の苗の扱や球根から花が咲くことなどの学びを通じて、ふれあい委員と子供たちとの心通う活動。
6	**アイグラン保育園 ポン菓子づくり**	新規	3月	ふれあい委員会4名 JA職員　4名 園児　48名	保育園の食育学習の一貫として、ポン菓子作りを開催した。

活動
報告書①

『ふれあいギャラリー』

継続活動

参加者層・人数	各教室、クラブ等　延べ８４名
活動・開催等期間	通期
開催場所	西条支店内ギャラリー
周知方法	
活動内容（計画）	支店内にギャラリースペースを設け、地域の方が作成された写真や絵画、陶芸などの展示の募集を行う。
計画策定に参画した個人（ＪＡ職員以外）や団体	西条中央フォトクラブ、墨游会、西条陶芸教室
経費等	０円
活動内容（実施段階）	毎月１回、支店内ギャラリーに写真や絵画、陶芸品、掛軸を２２点を展示して頂いている。
活動に対する効果	西条支店は、来店されるお客様が多く待ち時間の間に展示品を鑑賞して頂き時間を忘れて頂き心を癒して頂く。また、出品者の方も、次の作品に掲示に対してのモチベーションアップに繋がっている。また、支店側の事務処理面では少しでも時間の余裕があることで事務ミスの抑制に繋がった。
参加者の声	◎来店の度に、支店ギャラリーの展示品を見るのを楽しみにしてる。 ◎一時でも時間を忘れることが出来るので癒しになる。 ◎お客様自身も趣味でやっているので勉強になる。
反省点・課題	◎出展者が限定されており、展示スペースが限られる中でより多くの方の出品をして頂くことや募集方法が課題であると考えます。 ◎展示スペースをより充実させる為に、費用が必要となりますが予算額に課題があり活動が限定される。

活動
報告書②

『寺西小学校 ①田植え体験学習 / ②米作り体験学習』

継続活動

参加者層・人数	ふれあい委員 延べ12名　児童 延べ249名　住民自治協10名　JA職員 延べ6名
活動・開催等期間	①令和5年6月　②令和5年10月
開催場所	ふれあい委員会の委員長より圃場の提供を頂く
周知方法	小学校より、ふれあい委員会・JAに依頼があり協議を行い開催する旨をお伝えする。
活動内容(計画)	小学校より、古くからの主要産業である米作りを通して、食育教育や故郷寺西地区への愛着を育みたいとの依頼から、ふれあい委員、自治協議会、JAが協議し田植えを6月、稲刈りを10月に開催することを計画しました。また、アグリセンターより営農指導員を1名派遣することで、児童に対して田植え、稲刈り等の指導も計画をした。
計画策定に参画した個人(JA職員以外)や団体	寺西小学校・寺西住民自治協議会・ふれあい委員会
経費等	5,760円
活動内容(実施段階)	小学校、住民自治協議会、ふれあい委員会、JA西条支店、西条アグリセンターが一体となって、5年生児童に対して田植え、稲刈りの体験学習を行うことで食育の大切さを認識して頂いた。今後も、この体験学習を継続して行うことにより、他の小学校にも食育の輪が広がるように活動を続けていきます。
活動に対する効果	寺西地区は、近年急速に宅地化が進み、農地が減少しており、児童も農業に携わることがほぼないと聞いております。JAの基本である農業に対して若年層の内から、田植え・米作り体験学習を通して食の大切さの意識を感じて頂きました。また、JAが農業に関係した役割を担っていることを、児童が知って頂く機会にもなったことや、このような取組みを継続することで、将来に渡り地域活性化に繋がって行く役割をJAが主体となって果たせるよう活動していきます。
参加者の声	実際、初めて田植え体験をする児童が多く、裸足で田んぼの中に入って植付作業する大変さ、地域の方と一緒になってする楽しさ、土の感触など、体験して感じたことの声を頂きました。また、地域の方からは児童に対して、今日体験したことを、是非ご家族に話をしてみて下さいと話されていました。お米がどのような過程を経てできるのか、その苦労を少しでも理解してもらえれば、食の大切さ、フードロスなど小さい時から意識が芽生えることを大切にしたいと思います。
反省点・課題	児童数が100名を超え、一斉に田植えを行うため、苗の配布やその時々の適切な指導が間に合わず、サポートの人数を増員することが課題と感じました。また、田植え体験学習までに、児童の皆さんに田植えまでにどのような準備が必要かなど、JA営農指導員指導の下、児童が事前学習を行うことでより一層意味深いものになるのではないかと感じました。

ふれあい活動の実践報告

ＪＡひろしま　広島中央地域　西条支店

目次

- P3　西条支店の概要
- P5　西条支店ふれあい委員会
- P6　実践報告　～田植え体験学習～
- P8　実践報告　～ふれあいギャラリー～
- P10　今後の展望
- P11　まとめ

2

広島中央地域　西条支店の概要①

■ 支店所在地（東広島市西条栄町10-35）
※JAひろしま本店1階部分

■ 東広島市について
- 東広島市の人口　190,355人
- 西条町の人口　84,578人
- 教育機関　広島大学　他
- 特産品　日本酒・西条柿

3

広島中央地域　西条支店の概要②

※令和6年3月末時点

■ 組合員戸数

正組合員戸数	1,566戸	正組合員数	1,758人
准組合員戸数	3,872戸	准組合員数	4,692人
合計	5,438戸	合計	6,450人

■ 青壮年組織盟友数・女性組織部員数

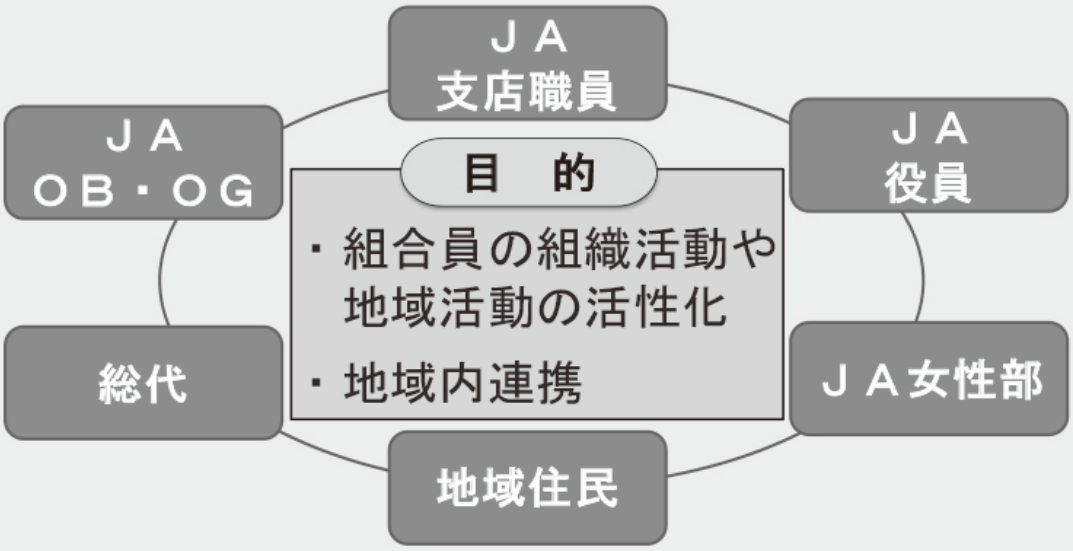
	青壮年組織	女性組織
盟友・部員数	64人	377人

■ 職員数

23人

4

西条支店ふれあい委員会



5

実践報告～田植え体験学習①～

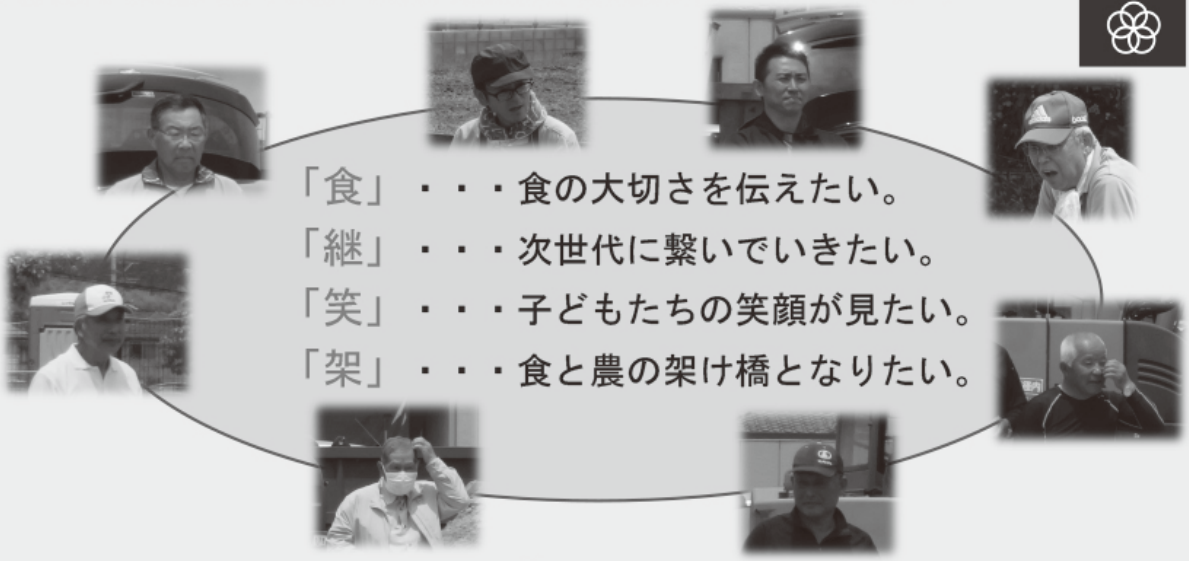
■開催日：R5.6.7　■体験内容：東広島市立寺西小学校5年生による田植え

■参加者：児童130名、地域住民10名、ふれあい委員6名、ＪＡ職員3名

6

実践報告～田植え体験学習②～

ふれあい委員それぞれの想いが活動の原動力になっています



7

実践報告～ふれあいギャラリー①～

個性豊かな作品が支店の一角を彩っています

8

実践報告～ふれあいギャラリー②～

ギャラリー出展者の方にインタビューしてきました！

9

今後の展望

■人が集まる場所づくり

（例）相続・税務セミナー、花の定植講習、松の剪定講習
　　スポーツジム等の他業態とのコラボレーション　など

■若い職員が多い支店の強みを活かした活動

- 「変えないリスク」＞「変えるリスク」
- 「できる理由」　　＞「できない理由」

10

まとめ

私たちが取り組む支店協同活動（ふれあい活動）は、ＪＡの諸先輩方が過去より総合事業を通じて地域の農家・組合員の生活のひだに触れてきた活動そのものであると考えます。

一昔前によく耳にした「ゆりかごから墓場まで」という言葉は、まさに先代が実践してきた活動を表現した言葉かもしれません。

私たちＪＡ職員はそのDNAを引き継ぎ、これからも地域とともに歩んでいきます。

11

ＪＡひろしま 作木支店

年間活動一覧

令和５年４月～令和６年３月

	活動名	新規/継続	開催月日	参加者層･人数	内容
1	**支店だより発行**	継続	４月から２月 計１１回	５００枚	ふれあい活動で配布
2	**作木保育所 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	５月	園児１３名 先生３名	夏野菜植え体験
3	**作木小学校 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	５月	１年生６名 先生１名	夏野菜植え体験
4	**作木保育所 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	６月	園児１１名 先生３名	さつま芋植え体験
5	**作木小学校 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	６月	２年生６名 先生２名	夏野菜植え体験
6	**女性部 グラウンドゴルフ大会**	継続	６月	女性部員１０名 地域住民７名	女性部活動協賛
7	**グラウンドゴルフ大会**	継続	７月	地域住民３９名	
8	**作木小学校 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	７月	１年生６名 先生１名	夏野菜収穫
9	**作木保育所 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	７月	園児１４名 先生３名	夏野菜収穫
10	**作木小学校 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	９月	１年生６名 先生１名	秋野菜植え体験
11	**梨プレゼント企画**	継続	９月	応募者３３名	作木町特産「梨」を抽選でプレゼント
12	**作木保育所 ちゃぐりんキッズクラブ**	継続	１０月	園児１４名 先生３名	芋ほり体験
13	**グラウンドゴルフ大会**	継続	１０月	地域住民３８名	
14	**さくぎふるさと祭り参加**	継続	１１月		地域のふるさとまつりに出店 子供向けに射的ゲーム（景品あり）
15	**支店感謝デー**	継続	１２月	来店者４０名	女性部作成「エコたわし」プレゼント
16	**支店感謝デー**	継続	２月	来店者４０名	バレンタインチョコをプレゼント

活動
報告書①

『グラウンドゴルフ大会』

継続活動

参加者層・人数	２回延べ　７７名
活動・開催等期間	夏季７月　秋季１０月
開催場所	作木町ふれあい公園
周知方法	支店だより　女性部グラウンドゴルフ大会で告知
活動内容(計画)	地域住民を対象としグラウンドゴルフ大会を行う。
計画策定に参画した個人(ＪＡ職員以外)や団体	作木町グラウンドゴルフ協会
経費等	53,506 円
活動内容(実施段階)	地域住民を対象としグラウンドゴルフ大会を行う。
活動に対する効果	地域住民が大会に参加を促進し JA 職員との交流・地域住民の交流が行われ地域の活性化に貢献できる。
参加者の声	たいへん喜んで頂けた。 毎年楽しみにされており、次の大会も元気に参加したい。
反省点・課題	賞品等の費用がかさみ他の活動に影響が出てきている。

活動
報告書②

『支店感謝デー・「梨」プレゼント企画』

継続活動

参加者層・人数	延べ 110 名
活動・開催等期間	年２回(12 月クリスマス　２月バレンタイン)
開催場所	作木支店窓口
周知方法	支店だより　窓口等掲示
活動内容(計画)	来店者にお菓子・エコたわし等プレゼント・作木特産「梨」プレゼント
計画策定に参画した個人(ＪＡ職員以外)や団体	JA 女性部・作木町果樹園芸組合・高丸農園(株)
経費等	35,761 円
活動内容(実施段階)	来店者にお菓子・エコたわし等プレゼント 支店だよりを利用し作木町特産「梨」プレゼント
活動に対する効果	JA 窓口へ来店を促せる。日頃の感謝を伝えられる。 作木町の特産品のアピール。地域の活性化。
参加者の声	たいへん喜んで頂いた。 特に「梨」プレゼント企画は継続を希望された。
反省点・課題	12 月開催日前ふれあい活動が大雪で延期となり、告知が十分できなかった。 告知の方法の見直し。 梨の生産者への依頼が遅くなった。

地域の拠り所となる支店を目指して

ＪＡひろしま　三次地域　作木支店　　前田　恭央

JAひろしま作木支店

日本の滝百選
「常清滝」

「ブッポウソウ」の
飛来日本一

作木町人口　1099人

JAひろしま作木支店

■組合員数（令和６年３月末）
正組合員　３１８人
准組合員　１４０人

■基幹作物　水稲
■農畜産物　梨・和牛

高齢化率
51.5%

「作木で高齢者といわれるのは
75歳から」宣言

支店ふれあい委員会

委員会メンバー
＊総代
＊女性部
＊ＯＢ
＊大型農家
＊後継者

① ●支店ふれあい委員会開催

② ●年間活動計画の策定

③ ●広報誌、支店だよりでＰＲ

支店ふれあい委員会年間活動計画

取組方針

①支店が地域の拠り所となり、組合員・利用者が
　気軽に立ち寄れる親しみのある店舗づくり。
②女性部や地域の組織団体と連携を図りながら、
　食と農を基軸とした交流活動の実施。
③職員一人一人が地域貢献の意識を高く持ち、
　地域活動・行事へ参加する。

「支店協同活動」「ちゃぐりんキッズクラブ」

「支店協同活動」

グラウンドゴルフ大会

窓口感謝デー

「ちゃぐりんキッズクラブ」

グラウンドゴルフ大会

平成22年から続いている
グラウンドゴルフ大会。
毎回約40人が参加し、楽しく
交流。

グラウンドゴルフ大会

支店職員参加
親睦を図る
→
大会後
参加者が来店
→
貯金等の相談

ＪＡ事業を利用するきっかけに！！

支店感謝デー

梨プレゼント

クリスマス

バレンタイン

作木特産品「梨のプレゼント企画」

第９次営農振興計画（令和４年度～令和６年度）に基づき、作木の特産品を活用した消費者交流の一環で、令和４年度から実施。

梨は作木果樹園芸組合と

株式会社高丸農園に協力依頼。

「みよしブランド」に
認定された
高丸農園の梨

支店感謝デー

梨プレゼント

クリスマス

バレンタイン

「クリスマス」

女性部さんお手製
「エコたわし」

「バレンタインデー」

支店職員お手製
「小物入れ」

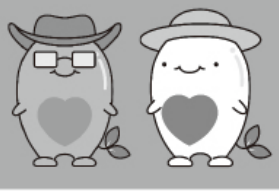
空き事務所を利用して、みんなが気軽に集まれる場所を作りたい

ふれあいカフェ

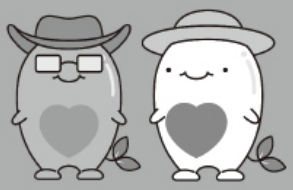
「支店協同活動」とは

支店ふれあい委員会と職員で支店独自の計画を策定

組合員や地域住民の参加・参画を促進し、実践すること



地域の拠り所となる支店づくりを目指す！



ご清聴ありがとうございました。

ＪＡ尾道市 世羅支店

年間活動一覧

令和５年４月～令和６年３月

	活動名	新規/継続	開催月日	参加者層･人数	内容
1	**支店広報誌作成**	継続	４月中旬	管内世帯 2500 戸配布	４月(新体制号)として、総員外務日に配布
2	**「浴衣デー」の開催**	継続	７月 (七夕に合わせて)	来店先着 100 名に粗品進呈	窓口担当者が浴衣で窓口対応を行い、日頃の感謝を表しふれあいを深める
3	**「健康講和」の開催**	継続	７月下旬	30 名	農林年金退職者会総会において、ＪＡ尾道総合病院講師による健康講和
4	**「大見よってけぇ祭り」へ参加**	継続	８月１０日	お子様からお年寄りまで延べ人数５００名	屋台村へ出店し、ＪＡ女性部と共催で尾道ラーメン･ＪＡジュースを提供
5	**「世羅高校陸上部」の応援**	新規	１１月下旬より実施	来店者	世羅高陸上部全国大会出場に際し、地元金融機関と合同で開催
6	**「門松造り」**	継続	１２月中旬	来店者	年末・新年を迎えるに辺り、本所・世羅支店前に門松を飾る
7	**支店広報誌作成**	継続	１月中旬	管内世帯 2500 戸配布	１月(新年号)として、総員外務日に配布

活動
報告書①

『「大見よってけぇ祭り」への参加』

継続活動

参加者層・人数	お子さんからお年寄りまで　　延べ人数５００名
活動・開催等期間	令和５年８月５日(土)
開催場所	大見自治センター前広場
周知方法	イベント用ポスター管内貼付　世羅町無線放送
活動内容(計画)	ＪＡ女性部と共催で屋台村へ屋台を出店 ①尾道ラーメン　100 食 ②ＪＡジュース　50 杯
計画策定に参画した個人(ＪＡ職員以外)や団体	JA 女性部
経費等	49,587 円
活動内容(実施段階)	ＪＡ女性部と共催で屋台村へ屋台を出店 ①尾道ラーメン　100 食　②ＪＡジュース　50 杯　①･②共に完売
活動に対する効果	屋台出店を通じて、組合員・地域住民の方と交流が図れた。 また、お子さん連れの若年層にもＪＡの教育文化活動(地域貢献)を知っていただく、きっかけとなった。
参加者の声	「美味しかった」、「今後も、続けてほしい」との声を多くいただいた。
反省点・課題	暑い時期の開催であり、職員の体調管理と調理衛生面へ気を付ける事。

活動
報告書②

『「世羅高校陸上部」の応援』

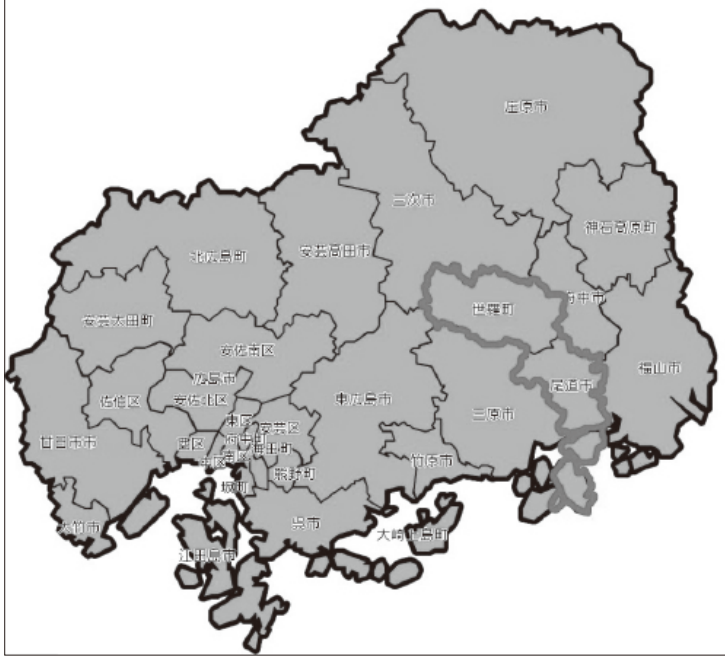
新規活動

参加者層・人数	来店者
活動・開催等期間	令和５年１１月２７日(月)～令和５年１２月２２日(金)
開催場所	世羅支店窓口
周知方法	窓口での声掛け
活動内容(計画)	世羅高校陸上部の全国高校駅伝競走大会出場に際し、地元金融機関(広島銀行・もみじ銀行・両備信用組合)と合同で、世羅高校陸上部のユニホームを模したビブスを窓口職員が着用し、全国大会の活躍を願い、応援したいと企画。
計画策定に参画した個人(ＪＡ職員以外)や団体	職員のみで構成
経費等	15,000 円
活動内容(実施段階)	①世羅高校陸上部のユニホームを模したビブスを窓口職員が着用。 ②応援旗１０本を支店内外に配置。 ③世羅高校から優勝トロフィーや写真を期間貸与いただき、ガラスケースにて展示。
活動に対する効果	地元金融機関(広島銀行・もみじ銀行・両備信用組合)と合同で行うことで、地元高校応援の一体感が生まれ、地域密着の金融機関のイメージが図れた。
参加者の声	来店された方に大変喜んでいただき、来年もまた実施してほしいとの声をいただきました。
反省点・課題	貸与展示品の種類の変更等を行い、マンネリ化しないよう工夫を行う。

組合員・地域住民とのふれあいを通じ、地域の拠り所となる支店づくり

ＪＡ尾道市　世羅支店
丸次　日出夫

ＪＡ尾道市



- 人　口：142,127人
  尾道市：127,388人
  世羅町：　14,739人
  （令和6年3月末時点）
- 組合員数：28,652人
  正組合員：15,927人
  准組合員：12,725人
  （令和6年3月末時点）
- 主な農産物
  米　アスパラガス　梨　ブドウ
  イチジク　桃　ワケギ　トマト
  柑橘　スイカ　etc...

ＪＡ尾道市　世羅支店

尾道市街から北方に約30㎞の通称「世羅台地」の中心
清らかな水と朝夕の気温差が育む自然の恵みに富んだ農業中心の町

- 組合員数：2,697人
- 正組合員：2,090人
- 准組合員：　607人

- 職員数：16人

年間活動計画

活動項目	活動名	活動内容
支店広報誌	支店広報誌の発行	年２回（４月・１月）に支店広報誌を発行し、総員外務日にて配布する。
支店企画活動	「浴衣デー」の開催	七夕に合わせ、窓口担当者が浴衣で業務を行い、来店者に粗品を進呈する。また、ＪＡ助け合い組織と協力して七夕飾りを作成し、店舗に飾る。
	「世羅高校陸上部」の応援	世羅高校陸上部が全国大会へ出場が決定した際、地元金融機関と合同で職員がユニフォームを模したビブスの着用や展示会を実施して活躍の機運を高める。
地域貢献活動	「健康講話」の開催	世羅地区農林退職者会総会にて、ＪＡ尾道総合病院　保健師による健康講話を開催する。
	地元の祭りへ参加	屋台村へ出店し、女性部と共同でジュース等を来場者へ提供し、地域と共にあるＪＡをアピールする。

地元の祭り「大見よってけぇ祭」

- 過疎化が進む中山間地域を盛り上げる目的
- 地域住民の子供からお年寄りまで楽しめるイベント

地元の祭り「大見よってけぇ祭」

- 「美味しかったよ」「今後も続けてほしい」等、多くの声をいただいた。
- 子連れの若年層にもＪＡのＰＲができた。

「世羅高校陸上部」の応援

- 駅伝競走でその名が全国に知られており、全国高等学校駅伝競走大会の第1回（1950年）、2回（1951年）大会を連覇するなど、「高校駅伝の草分け」として知られる。
- 出場50回（全国3位）、優勝11回（全国高校最多）、入賞37回（全国高校最多）の実績をもつ。
- 2015年と2020年には、男女共に全国高校駅伝大会で優勝した。

「世羅高校陸上部」の応援

ＪＡ福山市
神村支店
今津出張所

年間活動一覧

令和５年４月～令和６年３月

	活動名	新規/継続	開催月日	参加者層･人数	内容
1	**農業体験**	継続	５月～１１月 計４回	保育園児２５人	たまねぎ・さつまいも 定植・管理・収穫

活動
報告書①

『農業体験』

継続活動

参加者層・人数	地元保育園児及び保育者３０名
活動・開催等期間	令和５年５月～令和５年１１月
開催場所	ＪＡ福山市　松永家庭菜園
周知方法	神村支店今津出張所職員による保育園への直接案内
活動内容(計画)	神村支店今津出張所運営委員会にて協議を重ね、世代間の交流を図ることを目的に計画を立てている。
計画策定に参画した個人(ＪＡ職員以外)や団体	神村支店今津出張所運営委員会会員
経費等	資材、肥料、農薬、お茶、傷害共済等　36,000 円
活動内容(実施段階)	保育園児および保育者と共にたまねぎ・さつまいもの定植及び収穫を実施して農業を体験し、収穫後は保育園の給食において、収穫した野菜を使ったメニューを作り、委員会会員と共に食事をした。
活動に対する効果	活動を共にしている保育園の園庭の一角に菜園があり、そこで収穫できた野菜を給食に採用している。園児は自分たちで作った野菜を、嬉しそうに委員会会員に教えてくれる。 また、今津出張所が保育園の散歩コースになっており、職員との交流を図れている。
参加者の声	委員からは園児と作業をすることが楽しい、元気をもらえるなどの意見があった。 園児からもみんなと一緒に作った野菜を使って給食を食べるのが楽しい、という意見をいただいた。
反省点・課題	祖父母・親・こどもの世代間交流を図るという面では、親の世代との交流がまだ達成されていない。保育園の一行事としての活動もあるため、親の参加については課題がある。 親世代との新たな活動を模索しているところである。

神村支店今津出張所における協同活動

地域で必要とされ、頼りにされるＪＡになるために

園児によるタマネギの収穫

園児によるタマネギ苗の植付け

園児から届いた招待状

収穫したタマネギを調理したカレーライス

支店運営委員会協同活動の経緯

支店運営委員会の設置の目標

・地域の活性化

地域全体巻込んだ活動

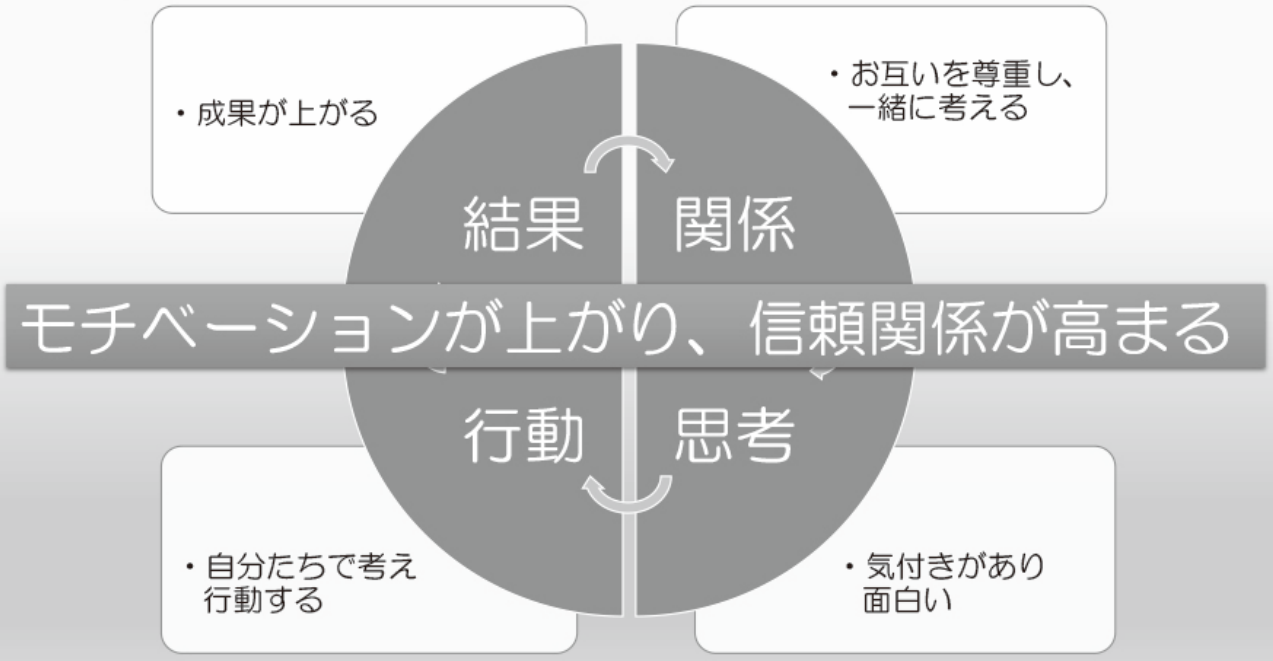
・健康づくり（ヨガ、踊り）
・スポーツイベント
・ボランティア活動（清掃活動、資源回収）
・高齢者福祉
・農業体験・指導

世代をつなげる

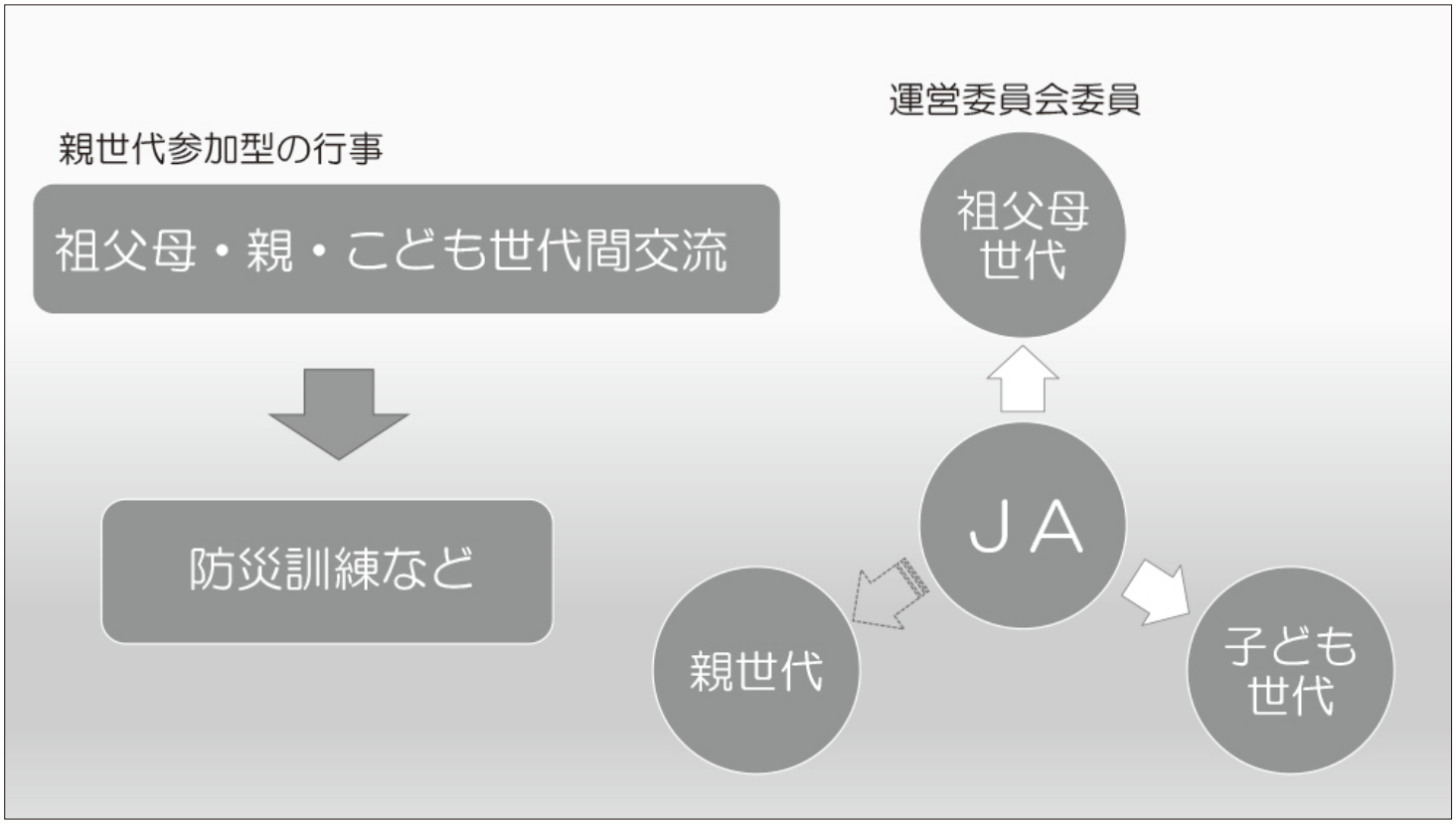
・地域農業振興型
・イベント型
・地域貢献型

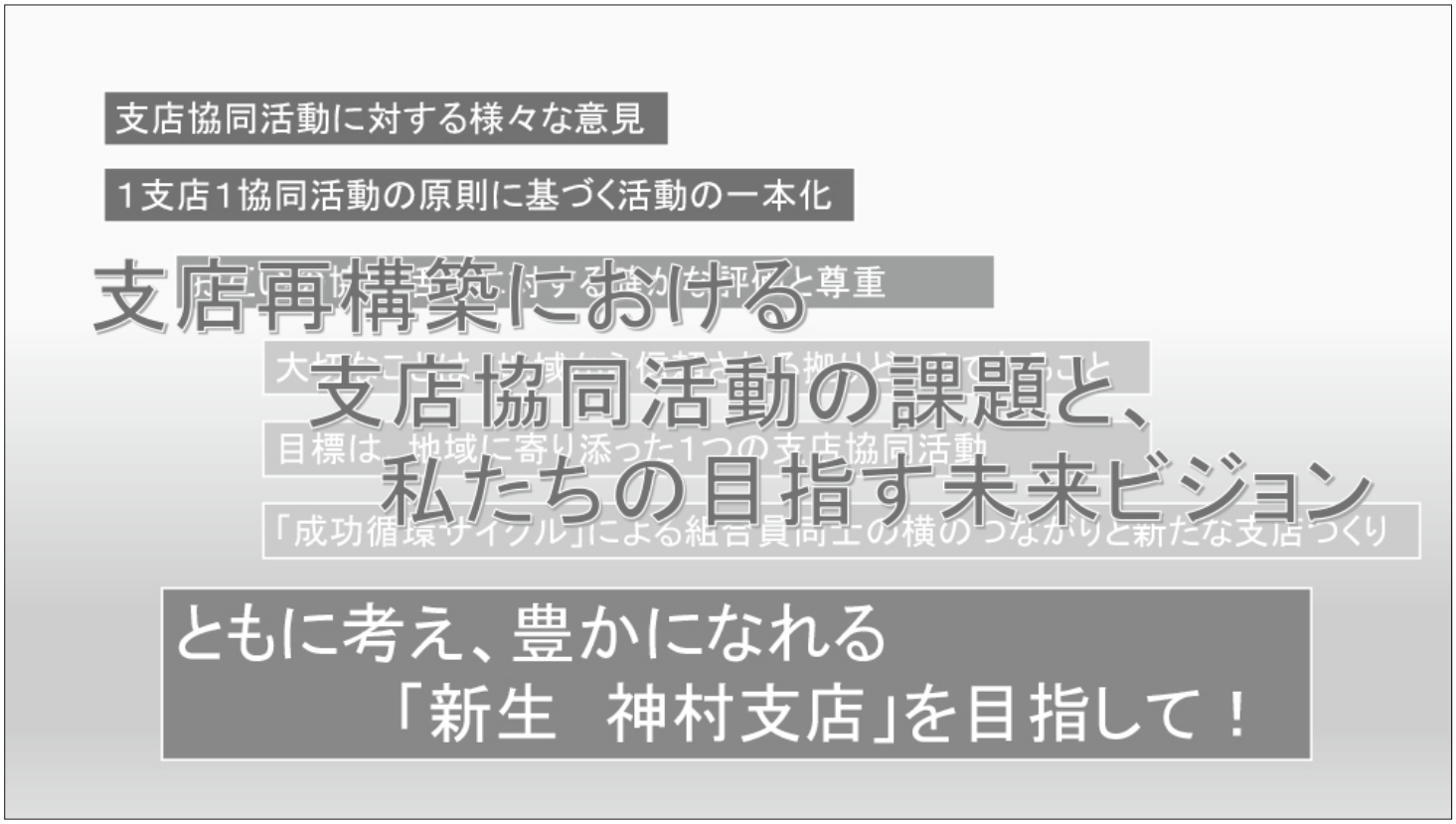
みんなが出来そうなこと・継続できることを
考慮して地元保育園との農業体験に決定

成功循環サイクル



マサチューセッツ工科大：ダニエル・キム教授提唱


親世代参加型の行事
祖父母・親・こども世代間交流
防災訓練など
運営委員会委員
祖父母世代
JA
親世代
子ども世代


支店協同活動に対する様々な意見
1支店1協同活動の原則に基づく活動の一本化
支店再構築における
支店協同活動の課題と、
私たちの目指す未来ビジョン
目標は、地域に寄り添った1つの支店協同活動
「成功循環サイクル」による組合員向上の横のつながりと新たな支店つくり
ともに考え、豊かになれる
「新生　神村支店」を目指して！

あ
り
が
と
う
!(^^)!
ご清聴ありがとうございました。

過去の受賞支店とノミネート支店（発表者）一覧

※ＪＡ名、発表者の所属・役職はコンクール参加当時のものです。

第１回（令和４年度）

最優秀賞　ＪＡ佐伯中央 吉和支店

優秀賞　ＪＡ呉 藤脇店

優良賞　ＪＡ庄原 上下支店

ＪＡ佐伯中央	吉和支店	『吉和支店夏まつり・ミニ展示会』『シトラスリボン活動』 発表者／清水 美佑
ＪＡ呉	藤脇店	『りんご狩り日帰り旅行』『フェルトソープ作り』 発表者／進藤 和宏
ＪＡ広島中央	豊栄支店	『日本農業新聞を読んで地域の将来を考えよう』 発表者／支店長 長久 剛慈
ＪＡ三原	久井中央支店	『農業体験学習』 発表者／支店長 槙岡 精治
ＪＡ庄原	上下支店	『ふれあいの夕べ』 『小学校食農教育（アスパラガス・お米作り学習）』 発表者／支店長 鶴本 幸司

第２回（令和５年度）

最優秀賞　ＪＡひろしま 三次地域本部 三次北支店

優秀賞　ＪＡひろしま 広島北部地域本部 向原支店

ＪＡひろしま	広島北部地域本部 向原支店	『食農教育』『グラウンドゴルフ大会』『ハブソウの職員栽培』 発表者／支店長 舩川 順司
ＪＡひろしま	三次地域本部 三次北支店	『ちゃぐりんキッズクラブ』『窓口感謝デー・軽トラ野菜市』 発表者／支店長 益田 和彦